

第 11 次愛別町振興計画策定のための
町民アンケート調査結果報告書

平成 3 0 年 1 2 月

愛 別 町

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法、回収結果	1
	(3) 本報告書の留意事項	1
2	回答者の属性	2
	(1) 性別	2
	(2) 年齢	2
	(3) 職業	2
	(4) 居住年数	3
	(5) 居住地区	3
II	調査結果	4
1	町への愛着と定住意向などについて	4
	(1) 町への愛着度	4
	(2) 町の魅力	6
	(3) 今後の定住意向	8
	(4) 住みたくない主な理由	10
2	町の現状と今後の取り組みについて	11
	(1) 町の各環境に関する満足度	11
	(2) 町の各環境に関する重要度	22
	(3) 満足度と重要度の相関（優先度）	32
	(4) 今後のまちづくりの特色	35
3	日頃の行動などについて	37
	(1) 日頃の行動	37
4	参画・協働のまちづくりについて	52
	(1) 町民参画・協働のまちづくりを進めるために必要なこと	52
5	人口減少対策について	54
	(1) 町内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと	54
	(2) 町外からの移住促進のために力を入れるべきこと	56
	(3) 町民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと	58
	(4) 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと	60
	資料：調査票	63

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第11次愛別町振興計画（平成32年度～平成41年度）の策定にあたって、町への愛着度や今後の定住意向をはじめ、町の各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、町民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	18歳以上の町民（全員）
配布数	2,460
調査方法	自治会長・区長による配布、返信用封筒による回収。
調査時期	平成30年9月
調査地域	町内全域。ただし、分析上は地域的傾向を把握するため、以下の7地区に区分した。 1. 金富地区 2. 厚生・伏古地区 3. 協和地区 4. 本町・北町・南町地区 5. 愛別・東町地区 6. 豊里・中央地区 7. 愛山・愛山町地区
有効回収数	1,037
有効回収率	42.2%

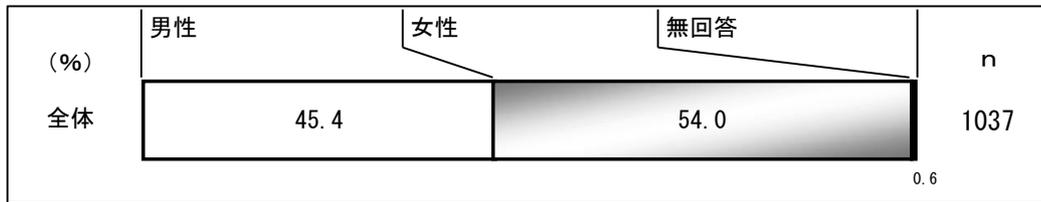
(3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問です。従って、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ 図表1以降の年齢別のグラフについて、10代の回答者数が少ない（14人）ため、20代とあわせて「10・20代」としています。

2 回答者の属性

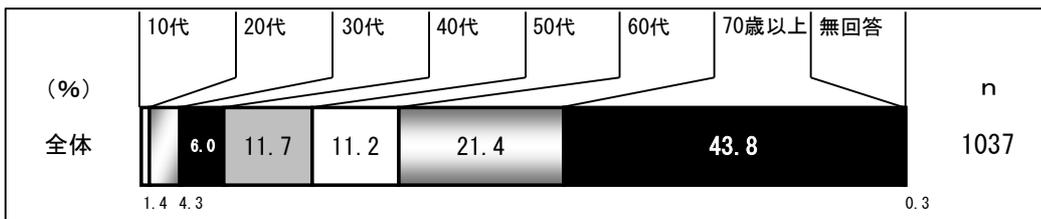
(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」が54.0%、「男性」が45.4%となっています。



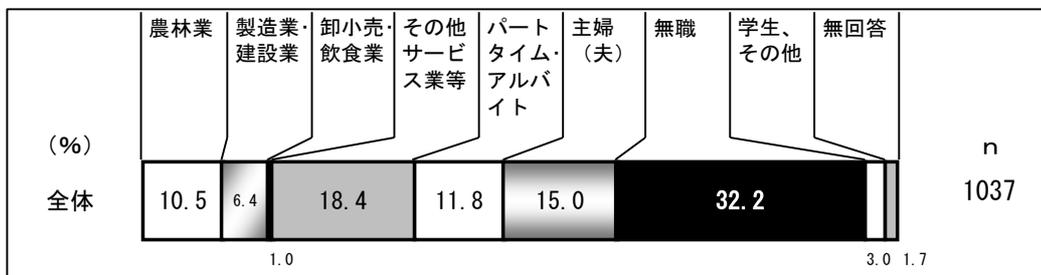
(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「70歳以上」(43.8%)、「60代」(21.4%)、「40代」(11.7%)、「50代」(11.2%)、「30代」(6.0%)、「20代」(4.3%)、「10代」(1.4%)の順となっています。



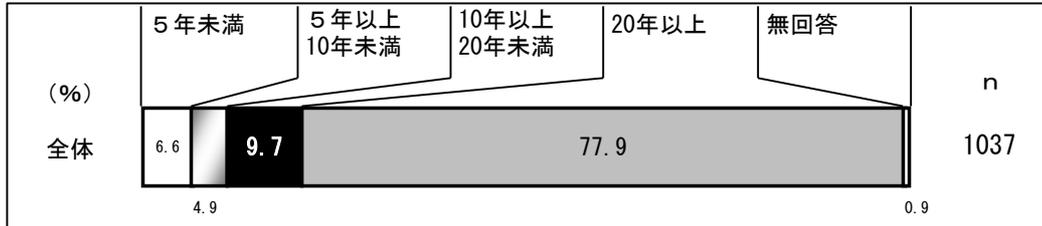
(3) 職業

回答者の職業は、「無職」(32.2%)、「その他サービス業等」(18.4%)、「主婦(夫)」(15.0%)、「パートタイム・アルバイト」(11.8%)、「農林業」(10.5%)、「製造業・建設業」(6.4%)、「学生、その他」(3.0%)、「卸小売・飲食業」(1.0%)の順となっています。



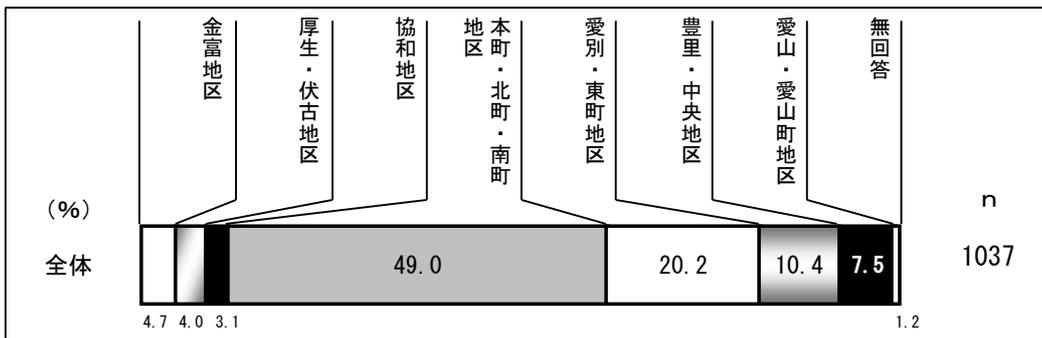
(4) 居住年数

回答者の居住年数は、「20年以上」(77.9%)、「10年以上20年未満」(9.7%)、「5年未満」(6.6%)、「5年以上10年未満」(4.9%)の順となっています。



(5) 居住地区

回答者の居住地区は、「本町・北町・南町地区」(49.0%)、「愛別・東町地区」(20.2%)、「豊里・中央地区」(10.4%)、「愛山・愛山町地区」(7.5%)、「金富地区」(4.7%)、「厚生・伏古地区」(4.0%)、「協和地区」(3.1%)となっています。



Ⅱ 調査結果

1 町への愛着と定住意向などについて

(1) 町への愛着度

問2 あなたは、愛別町に対して「自分のまち」としての愛着をどのように感じていますか。

● “愛着を感じている”が68.4%、“愛着を感じていない”が8.4%。

町民の町に対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかといえば愛着を感じている」と答えた人が37.3%で最も多く、次いで「とても愛着を感じている」と答えた人が31.1%で続き、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が68.4%と7割弱にのぼっています。これに対し、“愛着を感じていない”という人（「どちらかといえば愛着を感じていない」(5.0%)と「愛着を感じていない」(3.4%)の合計)は8.4%と1割に満たず、町への愛着度は高いといえます。

属性別で“愛着を感じている”率をみると、性別では、男性が70.5%、女性が66.8%と、男性の方がやや高くなっています。

年齢別では、40代(58.7%)で最も低く、次いで30代(59.6%)、10・20代(61.0%)の順で、40代までの層で比較的低くなっていますが、50代以降は年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上(74.0%)では7割を超えています。

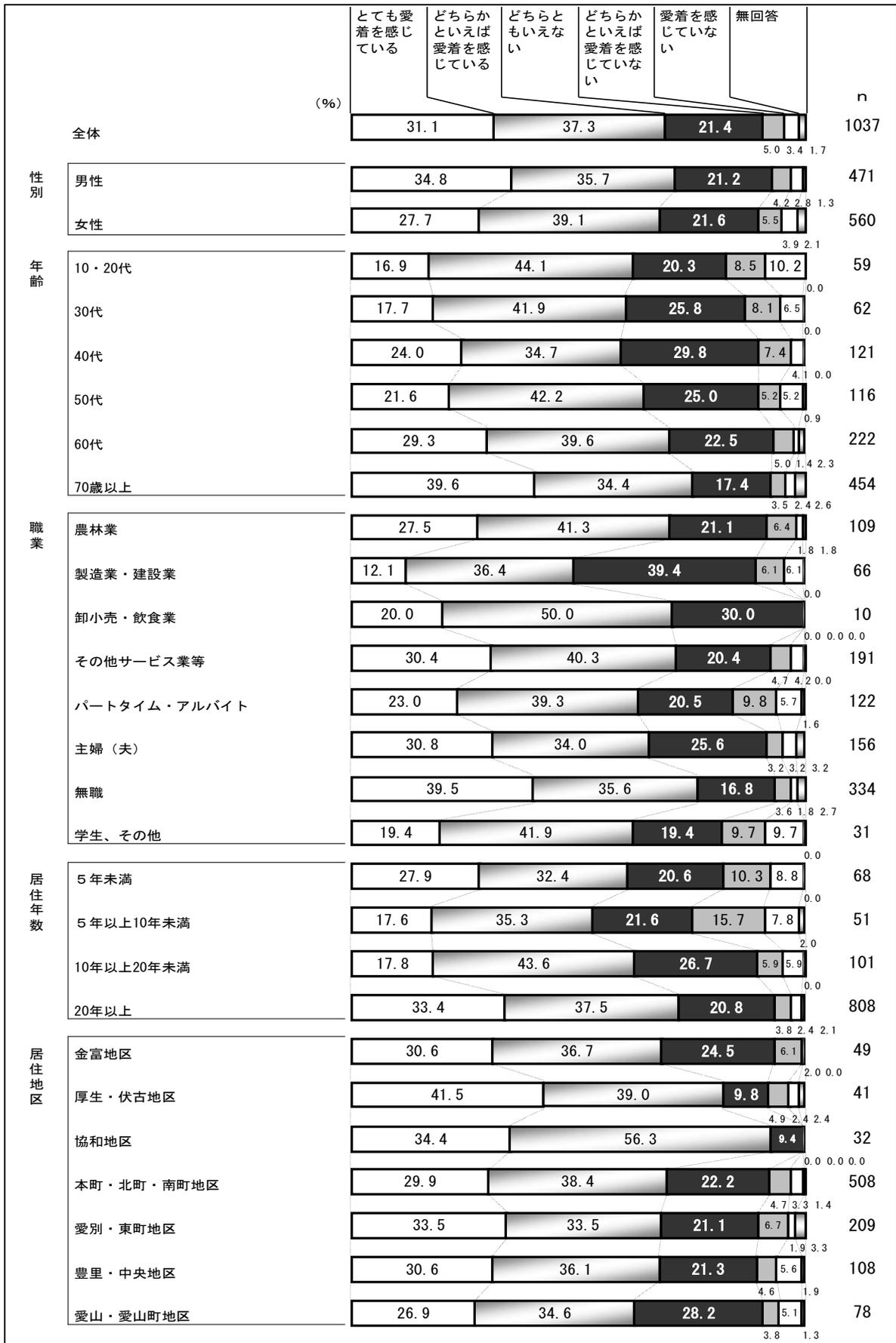
職業別では、無職(75.1%)で最も高く、製造業・建設業(48.5%)で最も低くなっています。

居住年数別では、20年以上(70.9%)で最も高く、5年以上10年未満(52.9%)で最も低くなっています。

居住地区別では、協和地区(90.7%)で9割を超えて最も高く、次いで厚生・伏古地区(80.5%)、本町・北町・南町地区(68.3%)、金富地区(67.3%)、愛別・東町地区(67.0%)、豊里・中央地区(66.7%)、愛山・愛山町地区(61.5%)の順となっており、協和地区及び厚生・伏古地区の高さと愛山・愛山町地区の低さが目立つ結果となっています。

これらのことから、愛着度が比較的低い女性や40代までの層、愛山・愛山町地区の住民などが愛着と誇りを持てるまちづくりをいかに進めていくかが今後の課題の一つとしてあげられます。[図表1参照]

図表1 町への愛着度（全体・性別・年齢・職業・居住年数・居住地区）



(2) 町の魅力

問3 あなたは、愛別町はどのようなところが魅力だと思いますか。【複数回答】

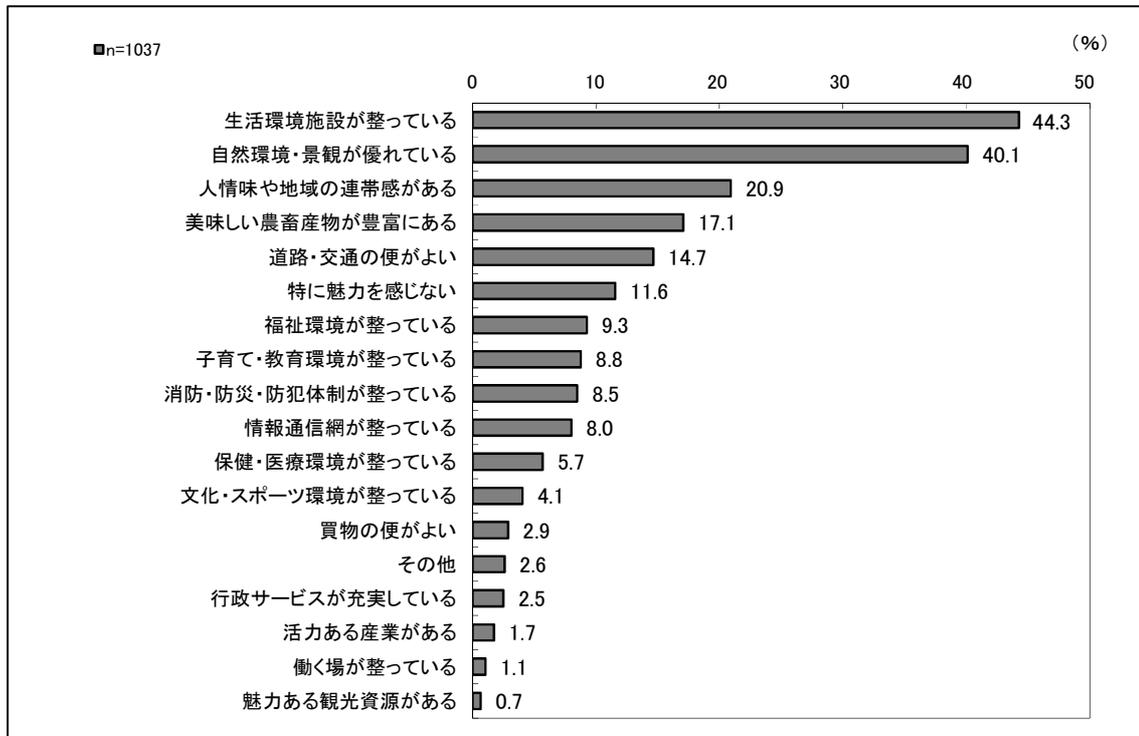
- 「生活環境施設が整っている」と「自然環境・景観が優れている」が他を大きく引き離して第1・2位を占める。

町の魅力についてたずねたところ、「生活環境施設が整っている」(44.3%)と「自然環境・景観が優れている」(40.1%)が他を大きく引き離して第1・2位を占めており、上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整備されていることや優れた自然環境・景観を町の魅力と感じている人が多くなっています。

その他では、「人情味や地域の連帯感がある」(20.9%)、「美味しい農畜産物が豊富にある」(17.1%)、「道路・交通の便がよい」(14.7%)、「特に魅力を感じない」(11.6%)などの順となっています。

属性別でも、ほとんどの層で第1・2位は全体と同様に「生活環境施設が整っている」あるいは「自然環境・景観が優れている」となっており、大きな違いはみられませんでした。[図表2・3参照]

図表2 町の魅力（全体／複数回答）



図表3 町の魅力（全体・性別・年齢・居住地区—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		生活環境施設が整っている 44.3	自然環境・景観が優れている 40.1	人情味や地域の連帯感がある 20.9
性別	男性	自然環境・景観が優れている 44.2	生活環境施設が整っている 43.3	人情味や地域の連帯感がある 18.9
	女性	生活環境施設が整っている 45.2	自然環境・景観が優れている 36.6	人情味や地域の連帯感がある 22.7
年齢	10・20代	自然環境・景観が優れている 54.2	生活環境施設が整っている 27.1	特に魅力を感じない 20.3
	30代	自然環境・景観が優れている 37.1	人情味や地域の連帯感がある 32.3	子育て・教育環境が整っている 29.0
	40代	自然環境・景観が優れている 43.0	生活環境施設が整っている 33.9	人情味や地域の連帯感がある／特に魅力を感じない 17.4
	50代	自然環境・景観が優れている 35.3	生活環境施設が整っている 29.3	人情味や地域の連帯感がある 22.4
	60代	自然環境・景観が優れている 47.7	生活環境施設が整っている 39.6	人情味や地域の連帯感がある 26.1
	70歳以上	生活環境施設が整っている 58.4	自然環境・景観が優れている 35.5	道路・交通の便がよい 20.5
居住地区	金富地区	生活環境施設が整っている 53.1	自然環境・景観が優れている／人情味や地域の連帯感がある 40.8	
	厚生・伏古地区	生活環境施設が整っている 46.3	自然環境・景観が優れている 43.9	人情味や地域の連帯感がある 24.4
	協和地区	自然環境・景観が優れている／生活環境施設が整っている 40.6		人情味や地域の連帯感がある 31.3
	本町・北町・南町地区	生活環境施設が整っている 47.0	自然環境・景観が優れている 39.4	人情味や地域の連帯感がある 17.1
	愛別・東町地区	生活環境施設が整っている 49.3	自然環境・景観が優れている 37.8	人情味や地域の連帯感がある 25.8
	豊里・中央地区	自然環境・景観が優れている 43.5	生活環境施設が整っている 31.5	美味しい農畜産物が豊富にある 20.4
	愛山・愛山町地区	自然環境・景観が優れている 43.6	生活環境施設が整っている 28.2	情報通信網が整っている／人情味や地域の連帯感がある 23.1

(3) 今後の定住意向

問4 あなたは、これからも愛別町に住みたいと思いますか。

● “住みたい”が60.7%、“住みたくない”が11.5%。

町民の今後の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人が36.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば住みたい」と答えた人が24.5%で続き、これらをあわせた“住みたい”という人が60.7%と約6割にのぼっています。これに対し、“住みたくない”という人（「どちらかといえば住みたくない」(8.0%)と「住みたくない」(3.5%)の合計）は11.5%と1割強程度で、定住意向は強いといえます。

属性別で“住みたい”率をみると、性別では、男性が64.6%、女性が57.6%と、男性の方がかなり高くなっています。

年齢別では、10・20代(37.3%)で最も低く、年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上(71.6%)では7割を超えています。

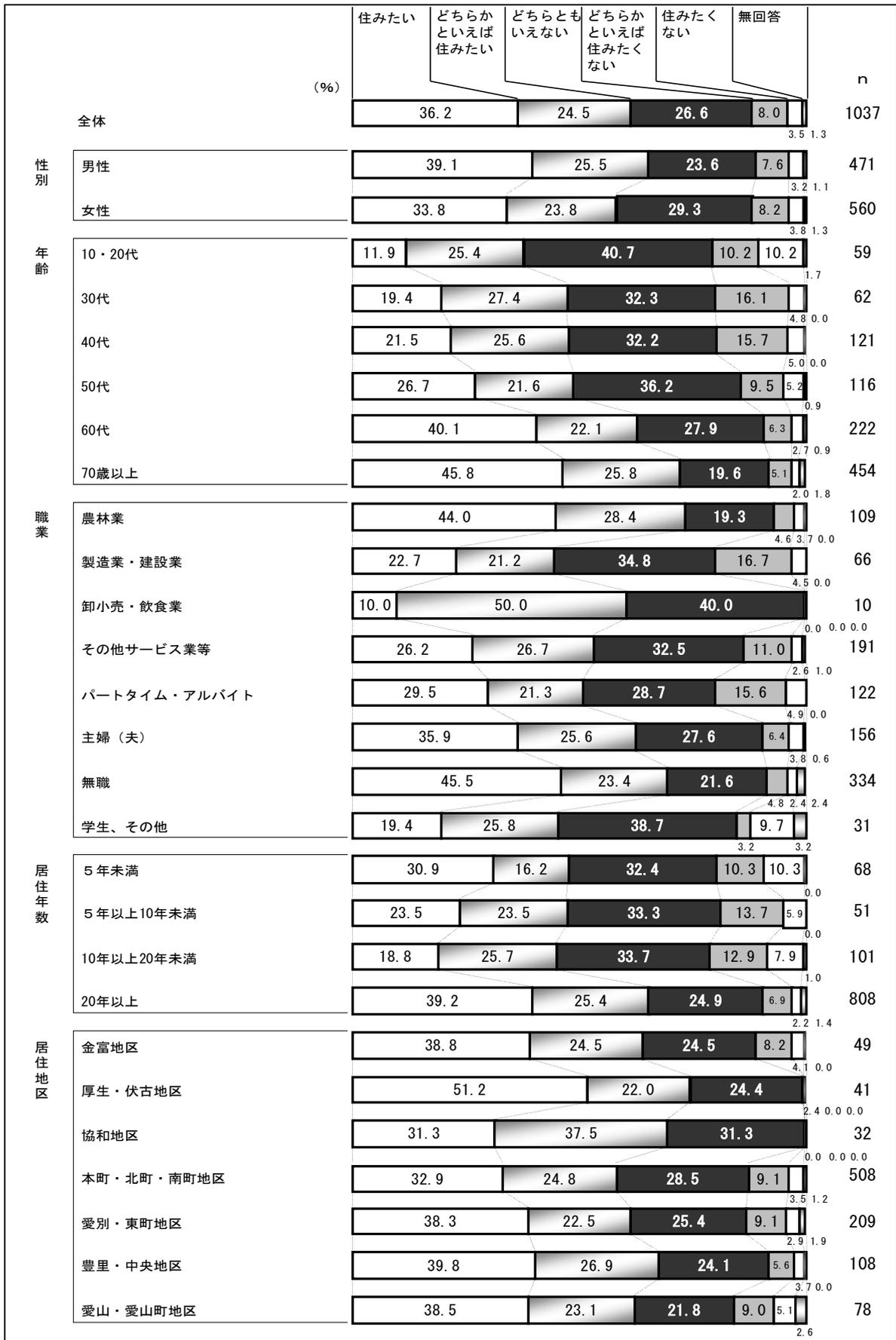
職業別では、農林業(72.4%)で最も高く、学生、その他(45.2%)で最も低くなっています。

居住年数別では、20年以上(64.6%)で最も高く、10年以上20年未満(44.5%)で最も低くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区(73.2%)で7割を超えて最も高く、次いで協和地区(68.8%)、豊里・中央地区(66.7%)、金富地区(63.3%)、愛山・愛山町地区(61.6%)、愛別・東町地区(60.8%)、本町・北町・南町地区(57.7%)の順となっており、厚生・伏古地区の高さと本町・北町・南町地区の低さが目立つ結果となっています。

これらのことから、定住意向が比較的弱い女性や10・20代、本町・北町・南町地区の住民などがずっと住みたくなくなるまちづくりをいかに進めていくかが今後の課題の一つとしてあげられます。[図表4参照]

図表4 今後の定住意向（全体・性別・年齢・職業・居住年数・居住地区）



(4) 住みたくない主な理由

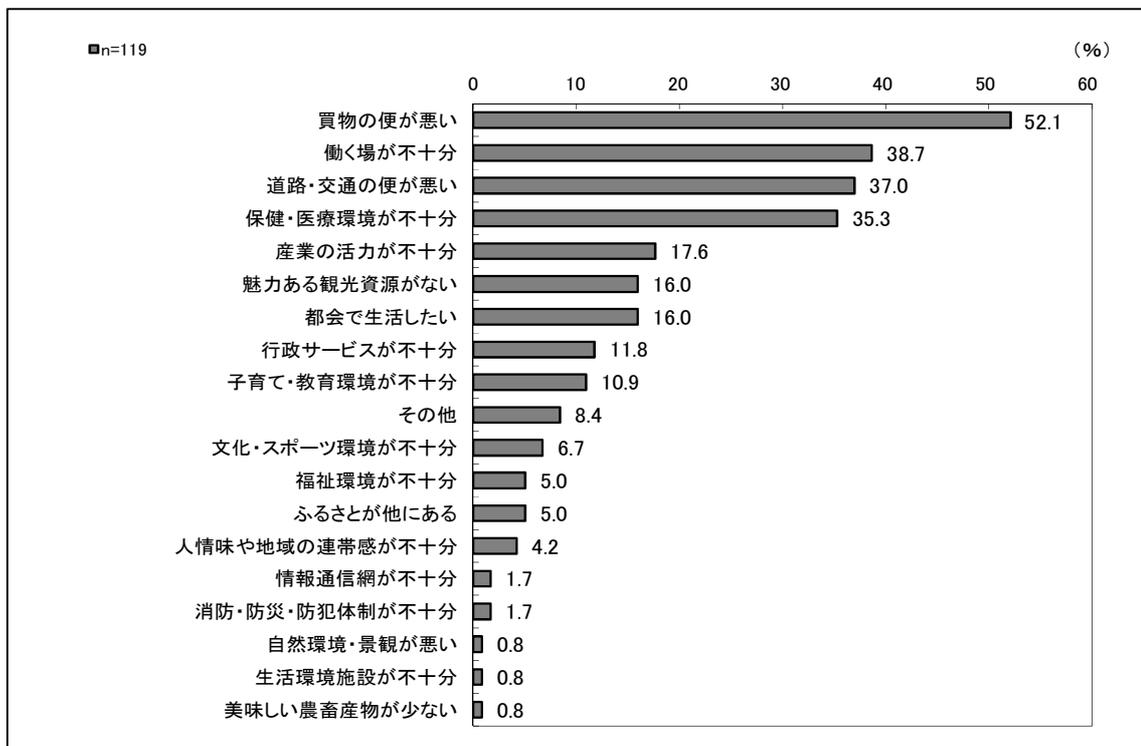
問4付問 住みたくない主な理由はなんですか。
(問4で“住みたくない”と回答した人のみ)【複数回答】

- 「買物の便が悪い」が他を引き離して第1位。次いで「働く場が不十分」、「道路・交通の便が悪い」、「保健・医療環境が不十分」の順。

問4で“住みたくない”と回答した119人(全体の11.5%)に、住みたくない主な理由についてたずねたところ、「買物の便が悪い」(52.1%)が他を引き離して第1位にあげられ、買物の場が不十分であることを指摘する人が特に多くなっています。また、「働く場が不十分」(38.7%)や「道路・交通の便が悪い」(37.0%)、「保健・医療環境が不十分」(35.3%)についても、4割弱の人からあげられ代表的な理由となっており、雇用環境や道路・交通網、保健・医療環境の不十分さを指摘する人も多くなっています(保健・医療環境については、問5の「町の各環境に関する満足度」の結果をみると、医療環境のことであると考えられる)。

これら以外では、「産業の活力が不十分」(17.6%)、「魅力ある観光資源がない」・「都会で生活したい」(同率16.0%)、「行政サービスが不十分」(11.8%)、「子育て・教育環境が不十分」(10.9%)などの順となっています(属性別の分析は回答者数が少ないため省略)。**[図表5参照]**

図表5 住みたくない主な理由(全体/複数回答)



2 町の現状と今後の取り組みについて

(1) 町の各環境に関する満足度

問5 愛別町では、これまで第10次愛別町振興計画（平成27年度～平成31年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。

- 満足度が最も高い項目は「上水道の整備状況」。次いで「ごみ処理・リサイクル等の状況」、「下水道の整備状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「雇用対策の状況」。次いで「商業振興の状況」、「観光振興の状況」の順。

町の各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、第10次愛別町振興計画の施策体系を踏まえ、生活環境分野、生活基盤分野、保健・医療・福祉分野、産業分野、教育・文化分野、協働・共生・行財政分野の6分野50項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化〔後述参照〕で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度が最も高い項目は「上水道の整備状況」（5.90点）となっており、次いで第2位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（5.22点）、第3位が「下水道の整備状況」（5.00点）、続いて「消防・救急体制」（4.09点）、「交通安全体制」（3.04点）、「保健サービス提供体制」（2.87点）、「情報通信環境」（2.66点）、「防犯体制」（2.28点）、「緑化の推進状況」（2.21点）、「防災体制」（2.05点）などの順となっています。

一方、満足度が最も低い項目は「雇用対策の状況」（-1.77点）となっており、次いで第2位が「商業振興の状況」（-1.57点）、第3位が「観光振興の状況」（-1.43点）、続いて「工業振興の状況」（-1.22点）、「移住促進施策の状況」（-1.09点）、「医療体制」（-0.40点）、「林業振興の状況」（-0.06点）、「行財政改革の状況」（-0.05点）の順となっています。

全体的にみると、生活環境分野をはじめ、ほとんどの分野の満足度が高くなっていますが、産業分野全般と移住促進施策、医療体制に関する満足度が低く、これらに課題を残していることがうかがえます。

また、50項目のうち、満足度がプラス評価の項目が42項目、マイナス評価の項目が8項目と、プラス評価の項目が大部分を占め、町の各環境に関する町民の評価は高いといえます。〔図表6参照〕

また、これを居住地区別でみると、以下のとおりとなっています。

金富地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」(6.09点)、第2位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.76点)、第3位が「下水道の整備状況」(4.67点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「商業振興の状況」(-1.74点)、第2位が「観光振興の状況」(-1.30点)、第3位が「工業振興の状況」(-1.09点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が43項目、マイナス評価の項目が6項目、中間点が1項目でした。[図表7参照]

厚生・伏古地区

満足度の上位3項目は、第1位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(4.71点)、第2位が「上水道の整備状況」(4.57点)、第3位が「消防・救急体制」(4.17点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「移住促進施策の状況」(-2.64点)、第2位が「商業振興の状況」(-2.43点)、第3位が「雇用対策の状況」(-2.42点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が40項目、マイナス評価の項目が10項目でした。[図表7参照]

協和地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」(6.38点)、第2位が「下水道の整備状況」(5.71点)、第3位が「消防・救急体制」(4.07点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策の状況」(-2.12点)、第2位が「商業振興の状況」(-1.54点)、第3位が「町営バスの状況」(-1.43点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が37項目、マイナス評価の項目が10項目、中間点が3項目でした。[図表7参照]

本町・北町・南町地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」(6.07点)、第2位が「下水道の整備状況」(5.73点)、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.48点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策の状況」(-1.84点)、第2位が「商業振興の状況」(-1.69点)、第3位が「観光振興の状況」(-1.64点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が41項目、マイナス評価の項目が9項目でした。[図表7参照]

愛別・東町地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」(6.66点)、第2位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(6.14点)、第3位が「下水道の整備状況」(5.87点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策の状況」(-1.79点)、第2位が「商業振興の状況」(-1.58点)、第3位が「工業振興の状況」(-1.34点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が42項目、マイナス評価の項目が8項目でした。[図表7参照]

豊里・中央地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」(5.41点)、第2位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(3.74点)、第3位が「消防・救急体制」(3.54点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策の状況」(-1.61点)、第2位が「観光振興の状況」(-1.21点)、第3位が「商業振興の状況」(-1.14点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が40項目、マイナス評価の項目が9項目、中間点が1項目でした。[図表7参照]

愛山・愛山町地区

満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」・「ごみ処理・リサイクル等の状況」(同点4.12点)、第3位が「情報通信環境」(3.68点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策の状況」(-1.44点)、第2位が「商業振興の状況」(-0.76点)、第3位が「不快害虫対策の状況」(-0.75点)となっています。

設定した50項目のうち、プラス評価の項目が43項目、マイナス評価の項目が7項目でした。[図表7参照]

※加重平均値による評価点(満足度)の算出方法

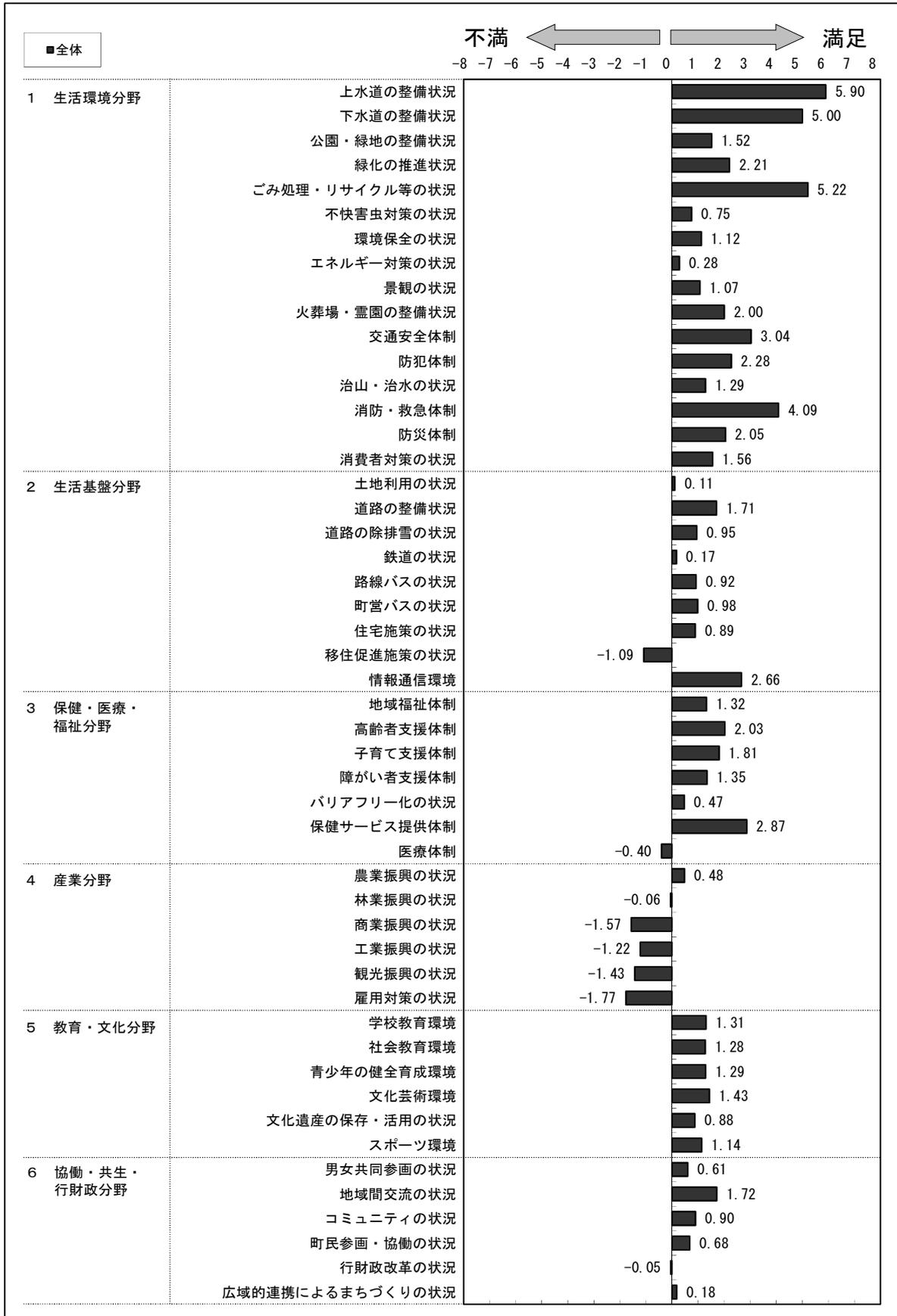
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(満足度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」、「不満であ} \\ \text{る」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点~-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表6 町の各環境に関する満足度（全体）

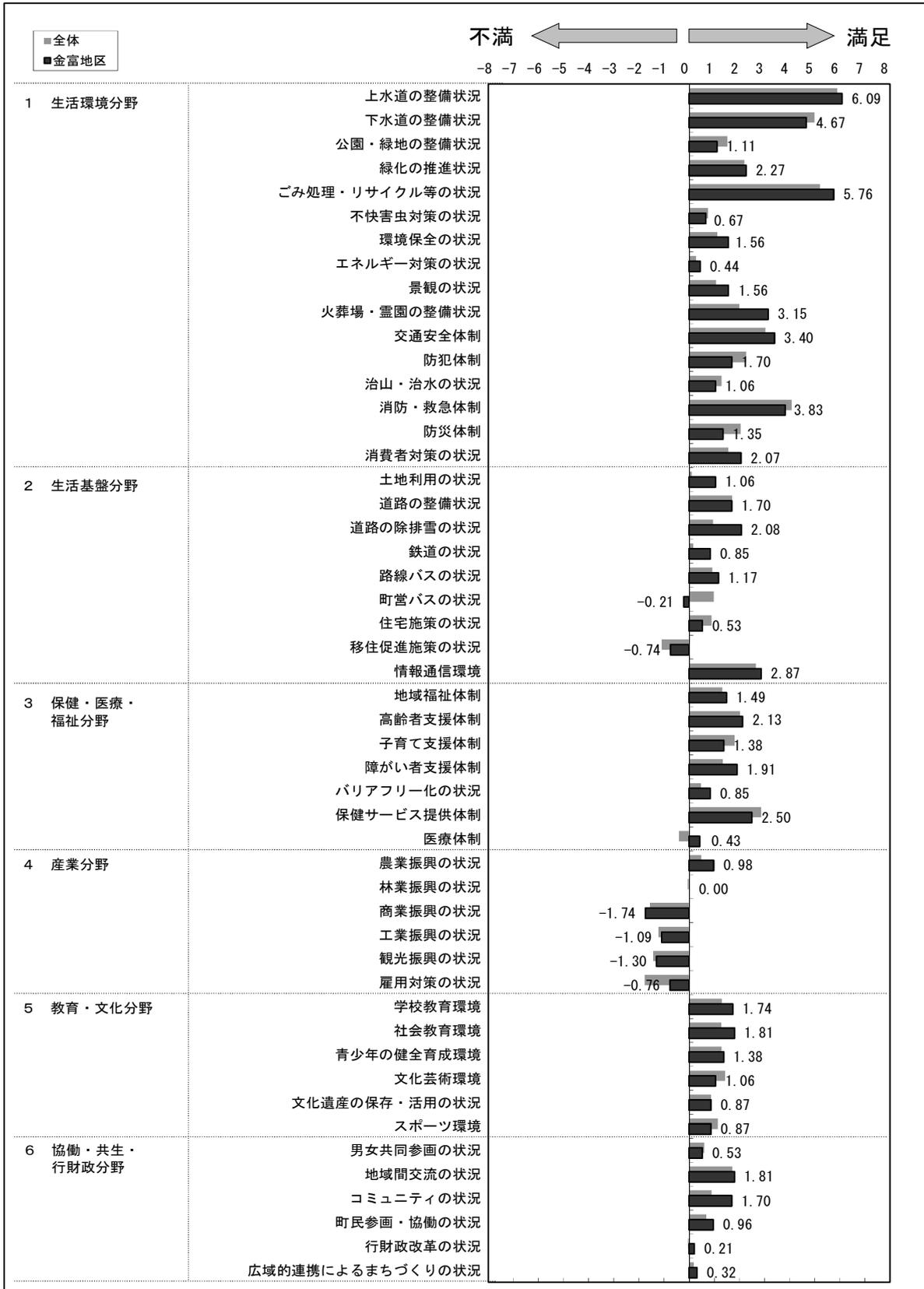
（単位：評価点）



図表7 町の各環境に関する満足度（居住地区）

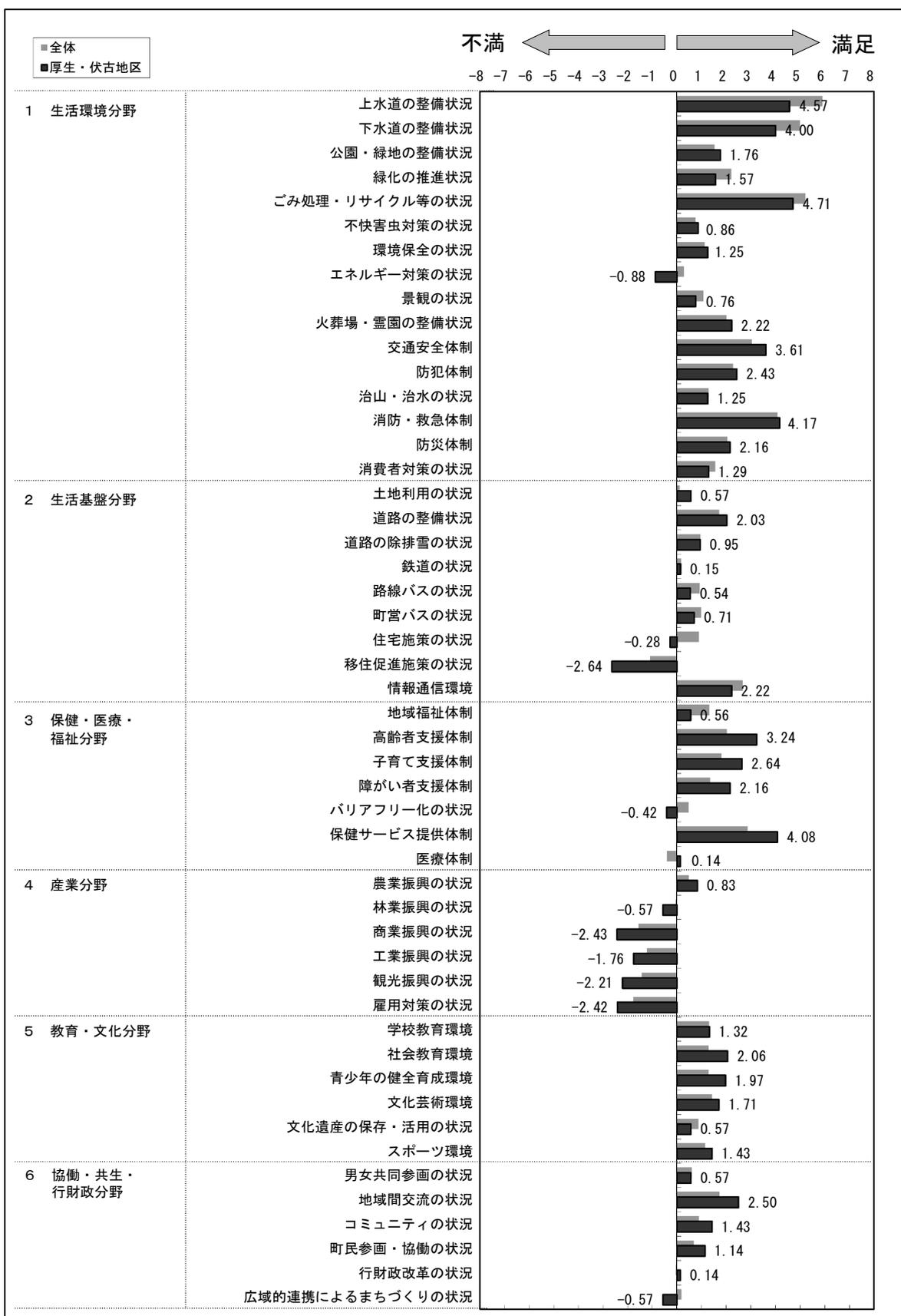
金富地区

（単位：評価点）



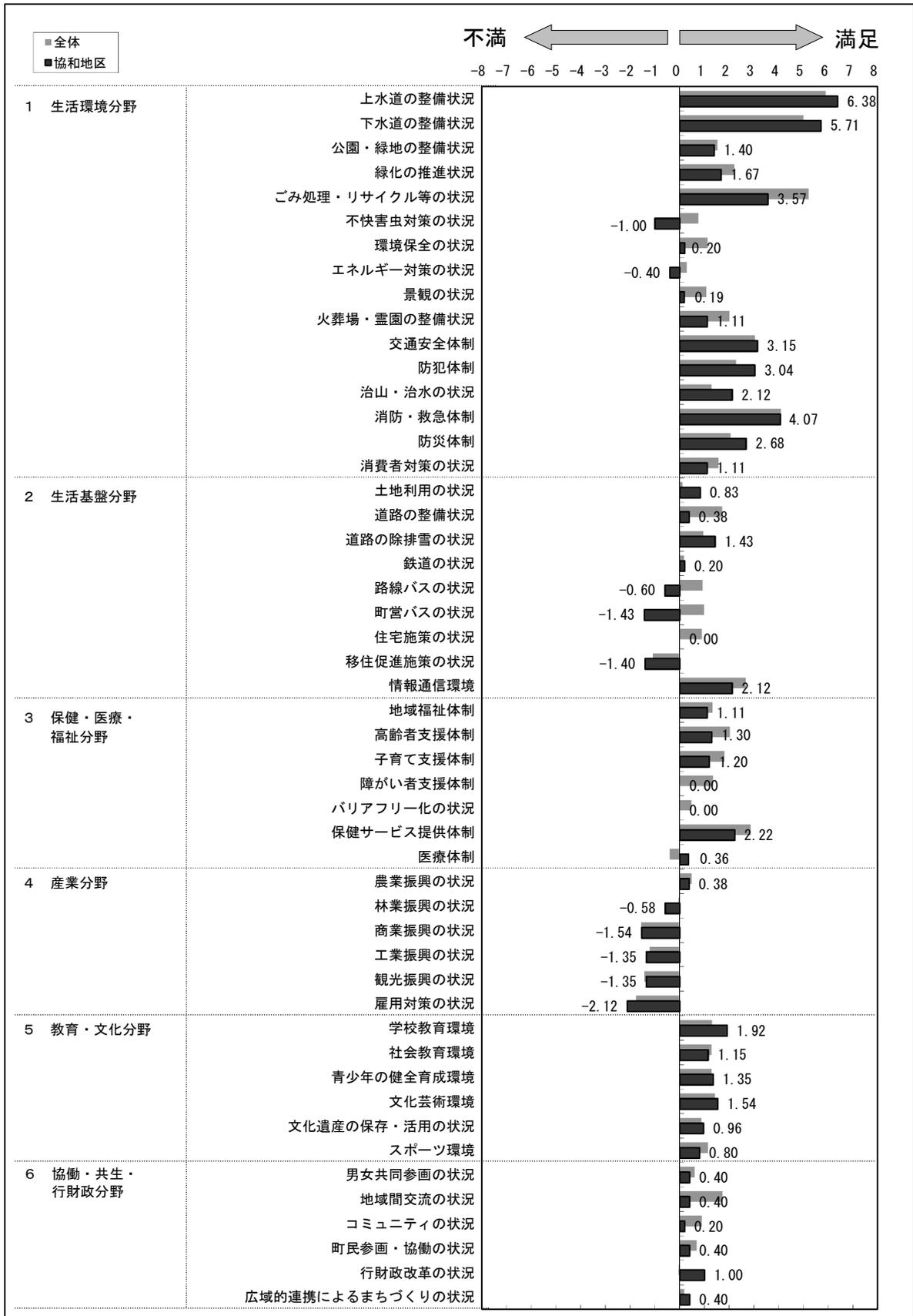
厚生・伏古地区

(単位：評価点)



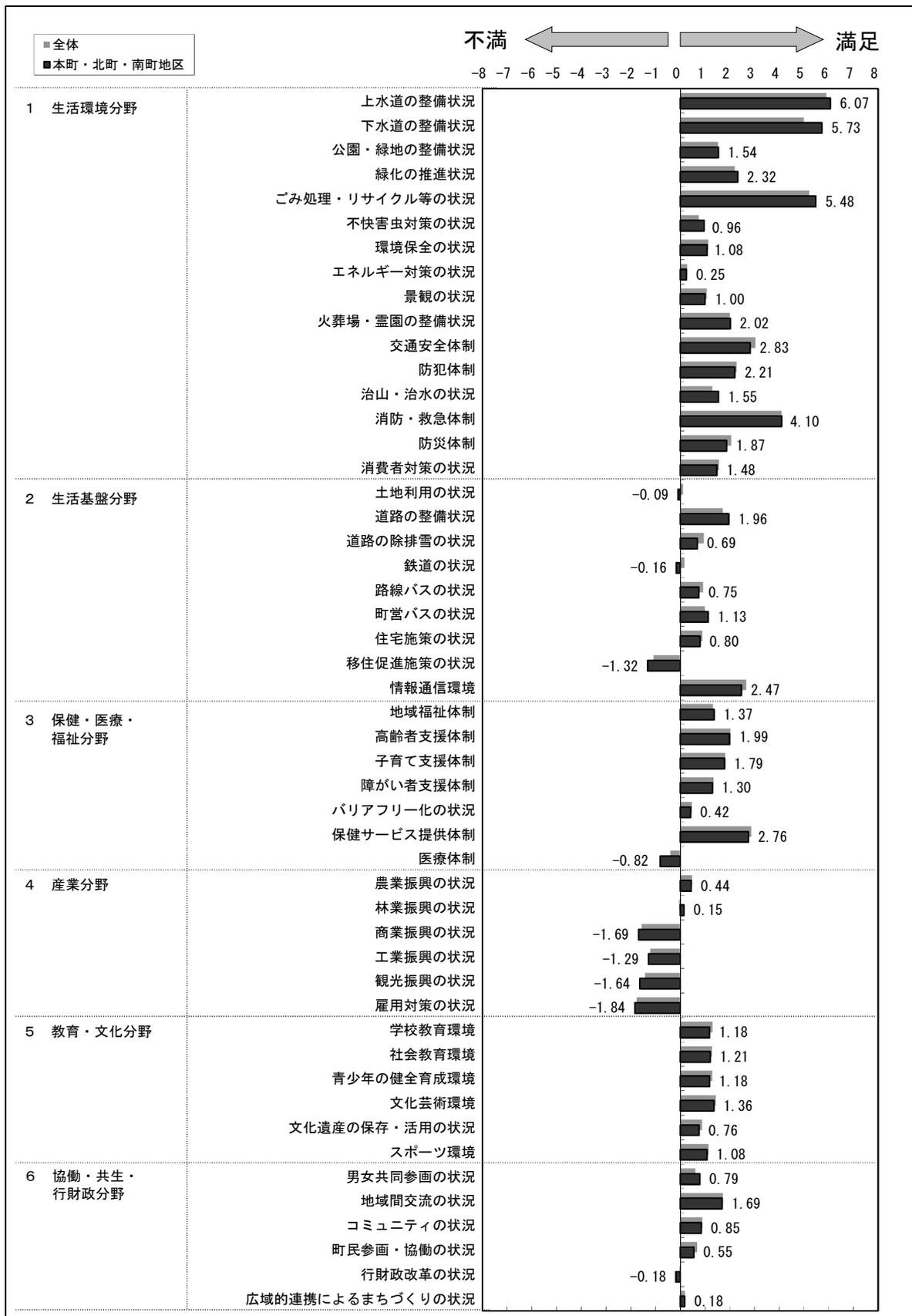
協和地区

(単位：評価点)



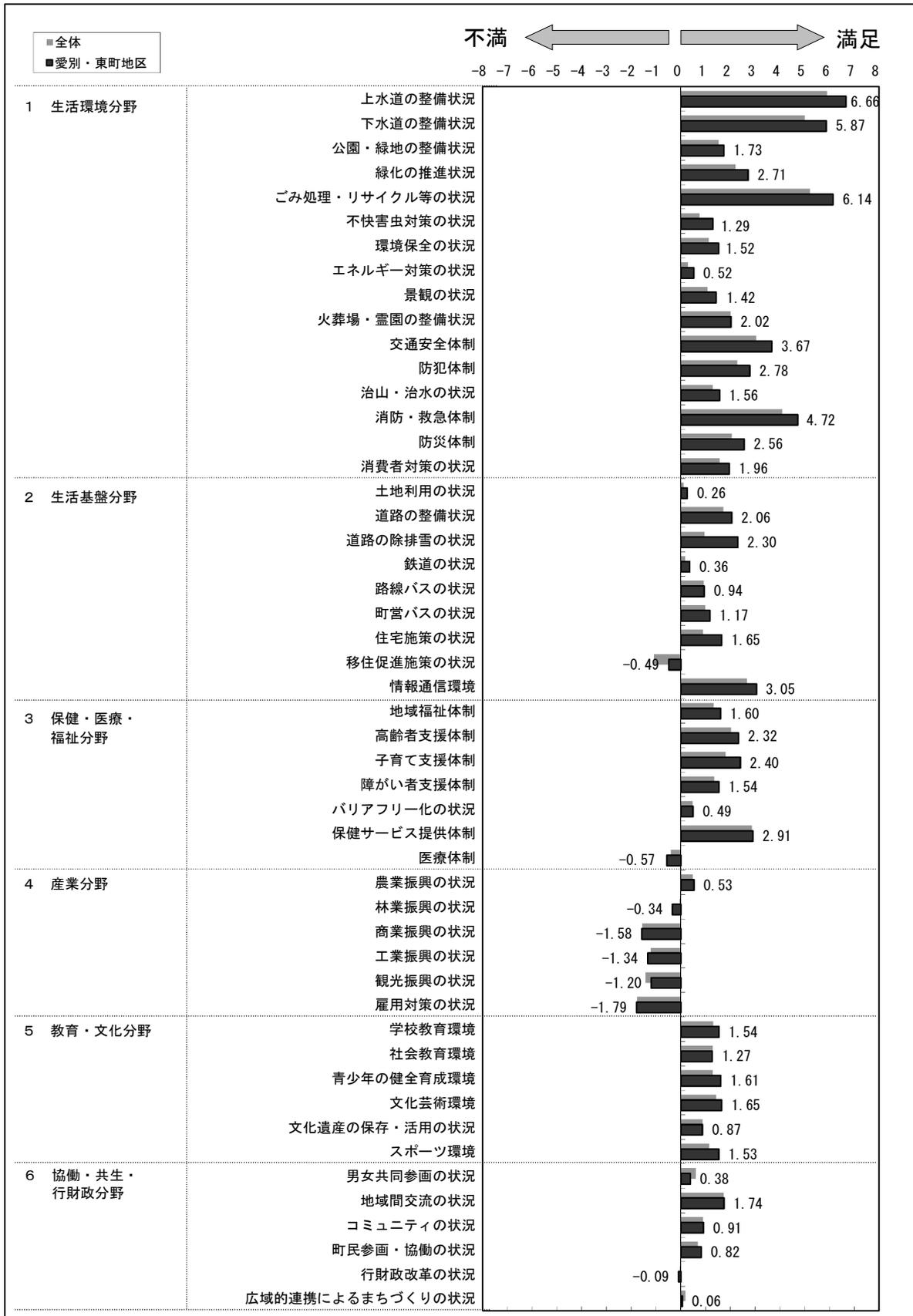
本町・北町・南町地区

(単位：評価点)



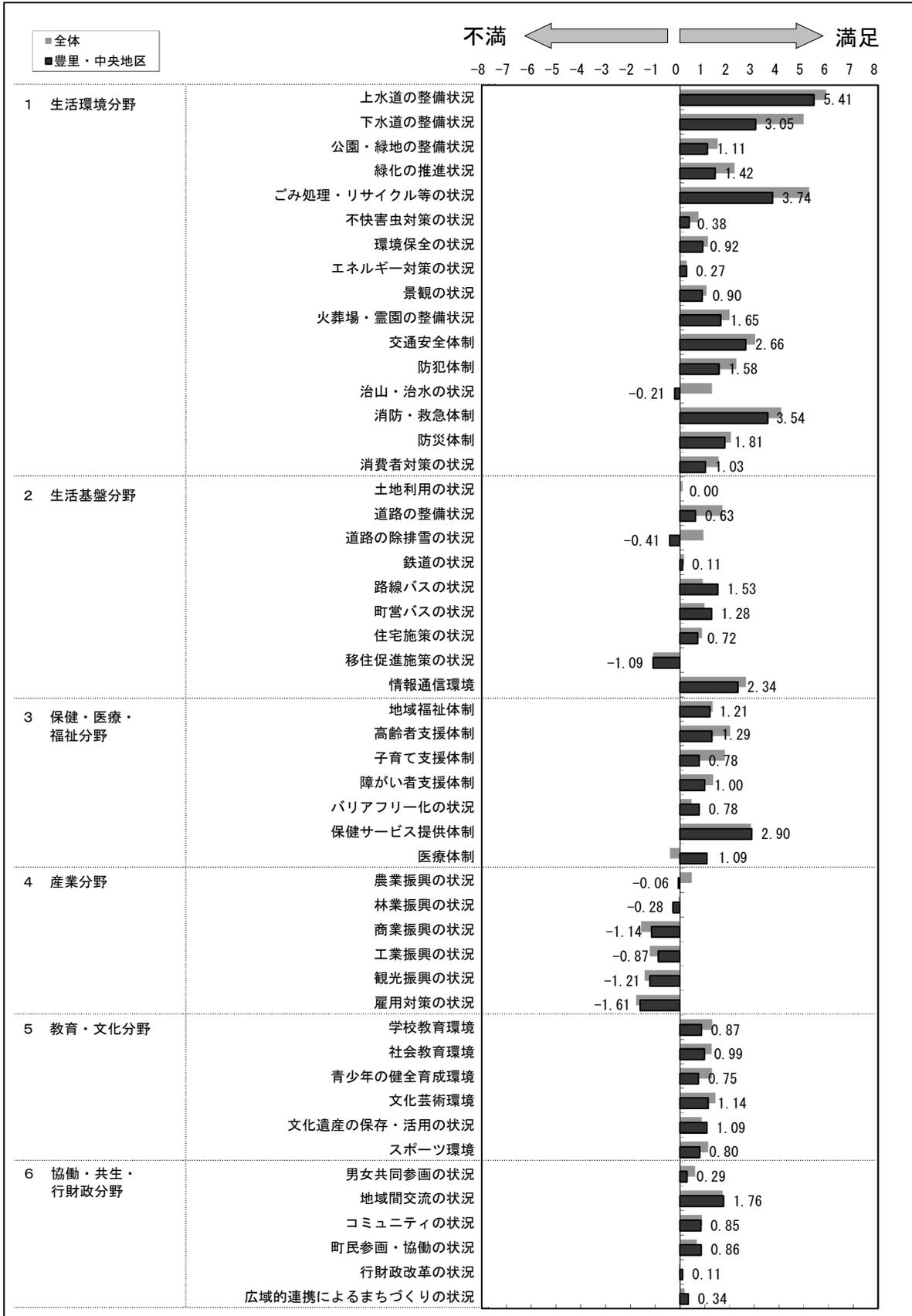
愛別・東町地区

(単位：評価点)



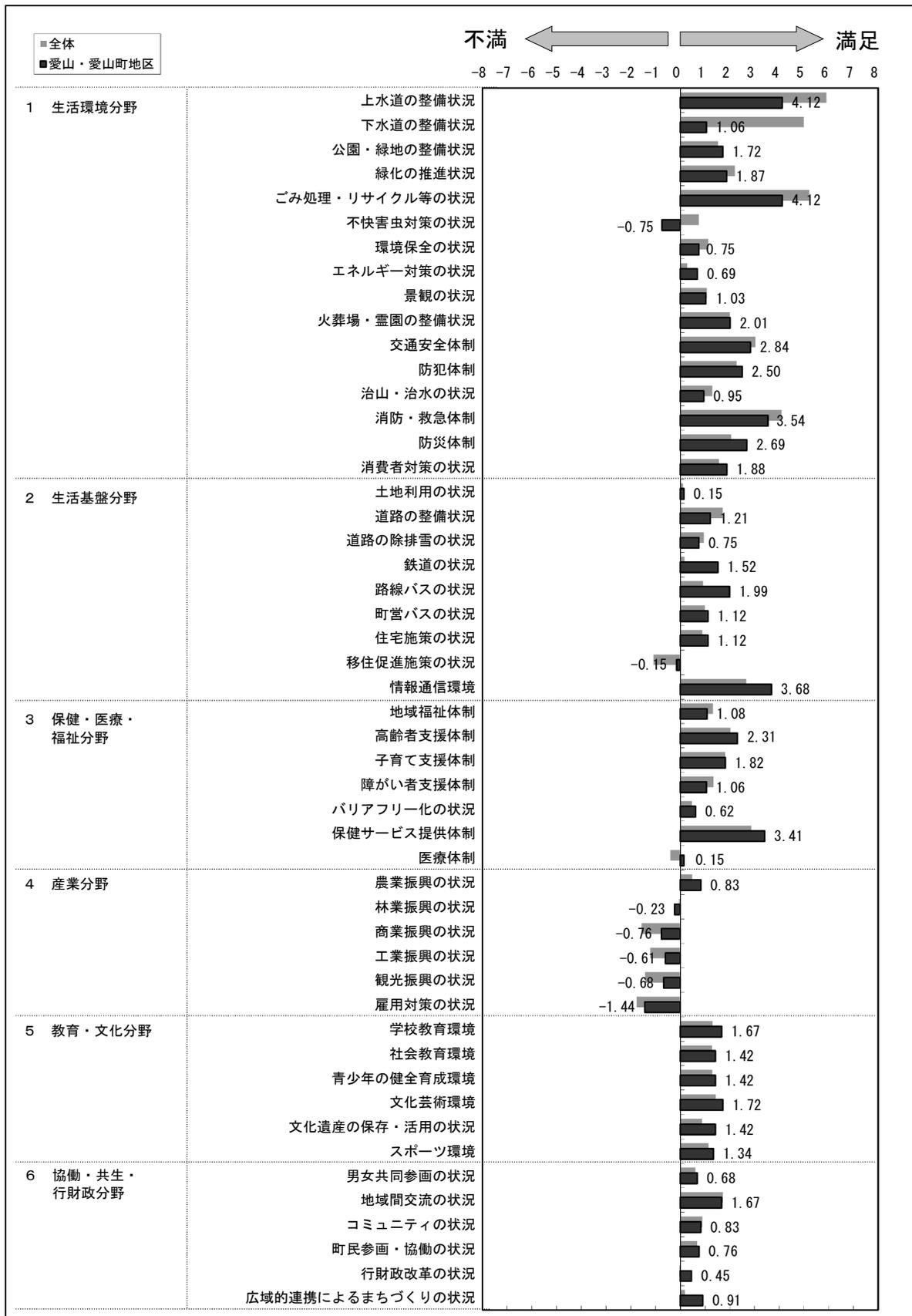
豊里・中央地区

(単位：評価点)



愛山・愛山町地区

(単位：評価点)



(2) 町の各環境に関する重要度

問5 愛別町では、これまで第10次愛別町振興計画(平成27年度～平成31年度)に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。

● 重要度が最も高い項目は「道路の除排雪の状況」。次いで「上水道の整備状況」、「下水道の整備状況」、「消防・救急体制」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」の順。

町の各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ6分野50項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点(重要度:最高点10点、中間点0点、最低点-10点)を算出しました。

その結果、重要度が最も高い項目は「道路の除排雪の状況」(5.59点)となっており、次いで第2位が「上水道の整備状況」(5.46点)、第3位が「下水道の整備状況」(5.13点)、続いて「消防・救急体制」(5.05点)、「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.03点)、「医療体制」(4.87点)、「防災体制」(4.73点)、「高齢者支援体制」(4.14点)、「防犯体制」(4.06点)、「子育て支援体制」(4.04点)などの順となっています。

これら上位10項目をみると、道路の除排雪の状況のほかは、6項目が生活環境分野、3項目が保健・医療・福祉分野の項目となっており、“道路の雪対策”をはじめ、“快適で安全・安心な住環境の整備”、“健康・福祉のまちづくり”が重視されていることがうかがえます。【図表8参照】

また、これを居住地区別で見ると、以下のとおりとなっています。

金富地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の整備状況」(6.02点)、第2位が「道路の除排雪の状況」(5.67点)、第3位が「下水道の整備状況」・「ごみ処理・リサイクル等の状況」・「防災体制」(同点5.45点)となっています。【図表9参照】

厚生・伏古地区

重要度の上位5項目は、第1位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.44点)、第2位が「農業振興の状況」(5.14点)、第3位が「医療体制」(5.00点)、第4位が「高齢者支援体制」(4.86点)、第5位が「交通安全体制」・「消防・救急体制」・「道路の除排雪の状況」(同点4.85点)となっています。【図表9参照】

協和地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の整備状況」(5.58点)、第2位が「農業振興の状況」(4.79点)、第3位が「下水道の整備状況」(4.62点)、第4位が「医療体制」(4.20点)、第5位が「治山・治水の状況」・「道路の除排雪の状況」・「情報通信環境」(同点4.00点)となっています。[図表9参照]

本町・北町・南町地区

重要度の上位5項目は、第1位が「道路の除排雪の状況」(5.66点)、第2位が「上水道の整備状況」(5.46点)、第3位が「下水道の整備状況」(5.31点)、第4位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.08点)、第5位が「医療体制」(5.00点)となっています。[図表9参照]

愛別・東町地区

重要度の上位5項目は、第1位が「道路の除排雪の状況」(6.51点)、第2位が「上水道の整備状況」(5.98点)、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.84点)、第4位が「下水道の整備状況」(5.82点)、第5位が「消防・救急体制」(5.73点)となっています。[図表9参照]

豊里・中央地区

重要度の上位5項目は、第1位が「上水道の整備状況」(5.16点)、第2位が「消防・救急体制」・「医療体制」(同点5.06点)、第4位が「道路の除排雪の状況」(4.73点)、第5位が「下水道の整備状況」(4.44点)となっています。[図表9参照]

愛山・愛山町地区

重要度の上位5項目は、第1位が「道路の除排雪の状況」(4.76点)、第2位が「防災体制」(4.50点)、第3位が「上水道の整備状況」(4.43点)、第4位が「消防・救急体制」(4.33点)、第5位が「高齢者支援体制」(4.30点)となっています。[図表9参照]

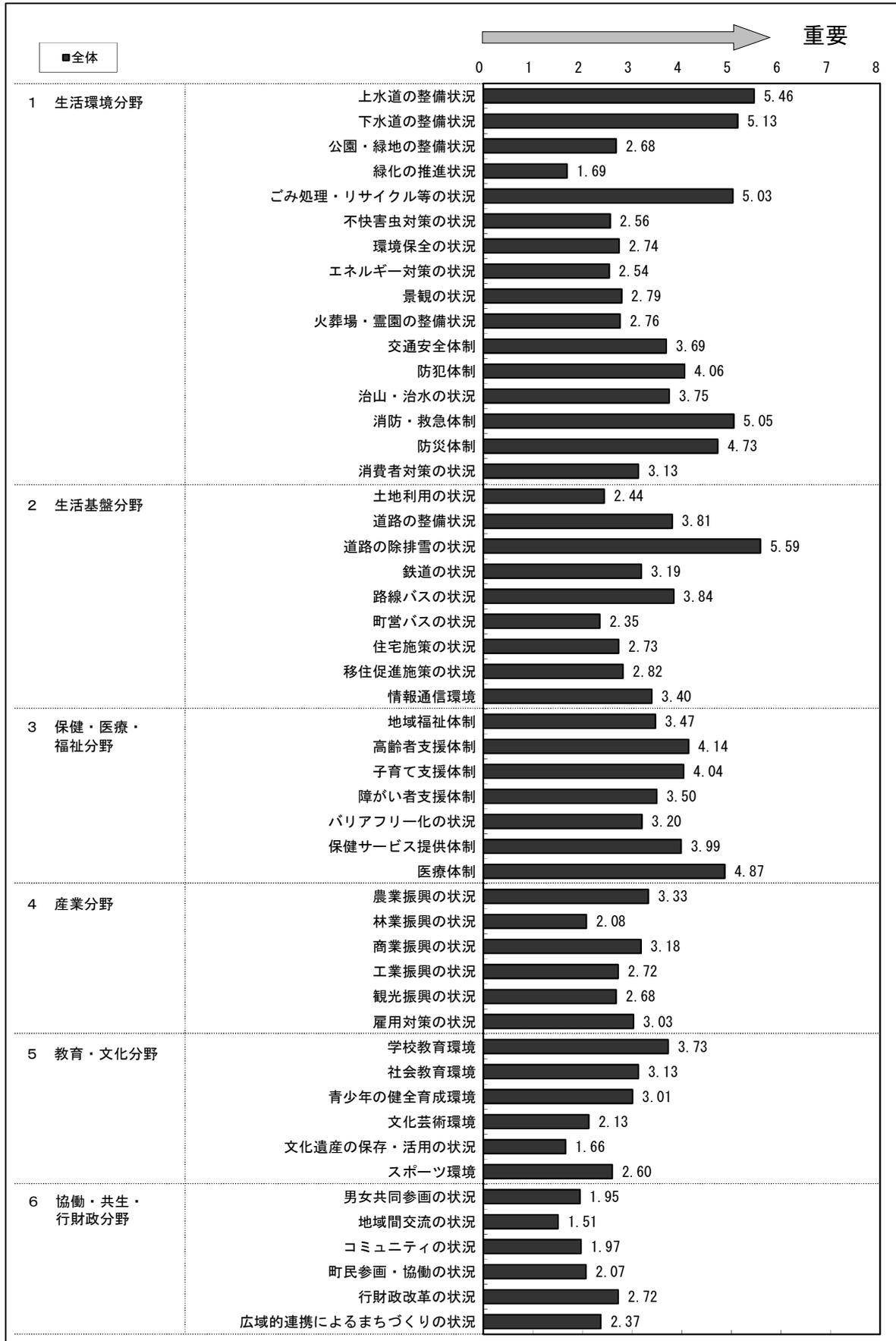
※加重平均値による評価点(重要度)の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(重要度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

図表8 町の各環境に関する重要度（全体）

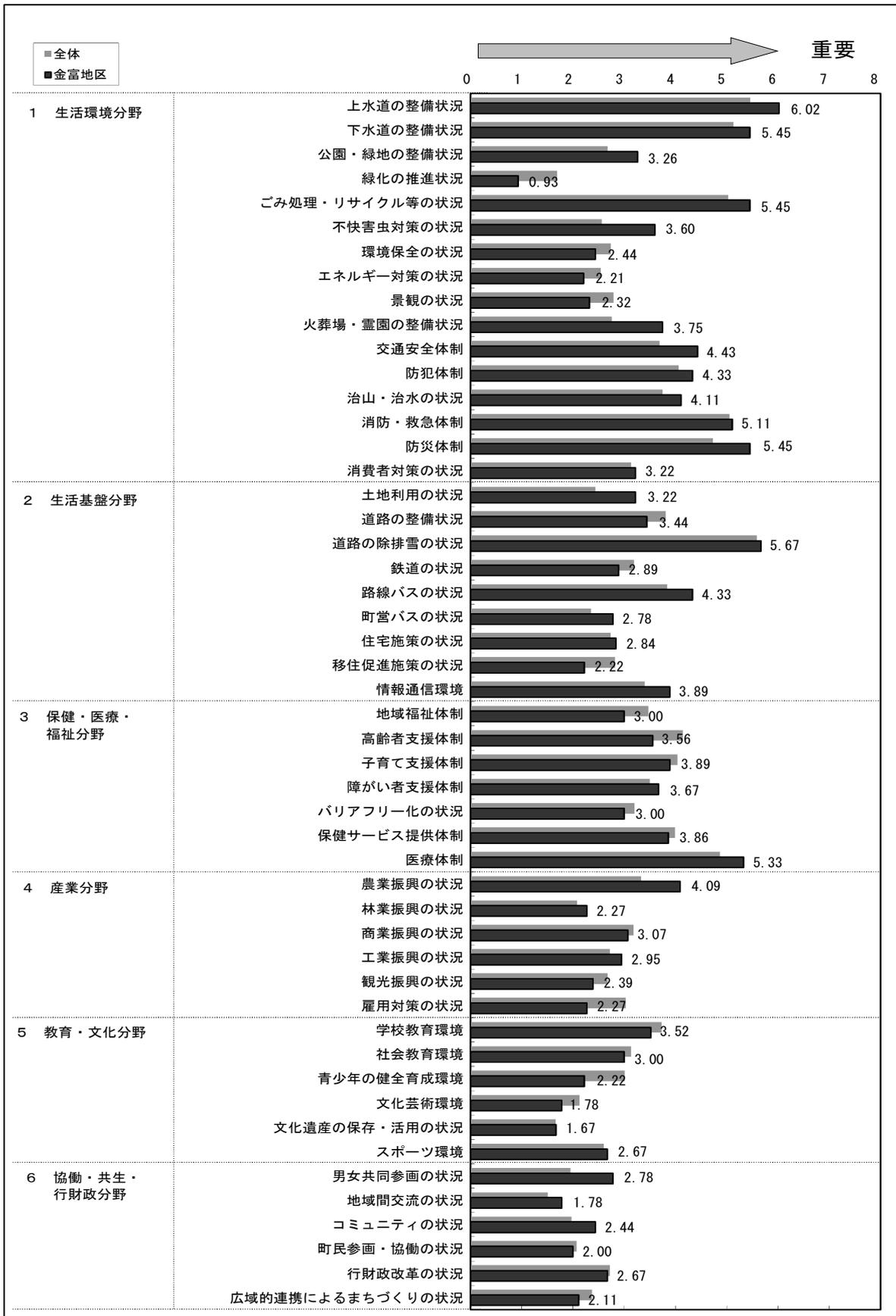
（単位：評価点）



図表9 町の各環境に関する重要度（居住地区）

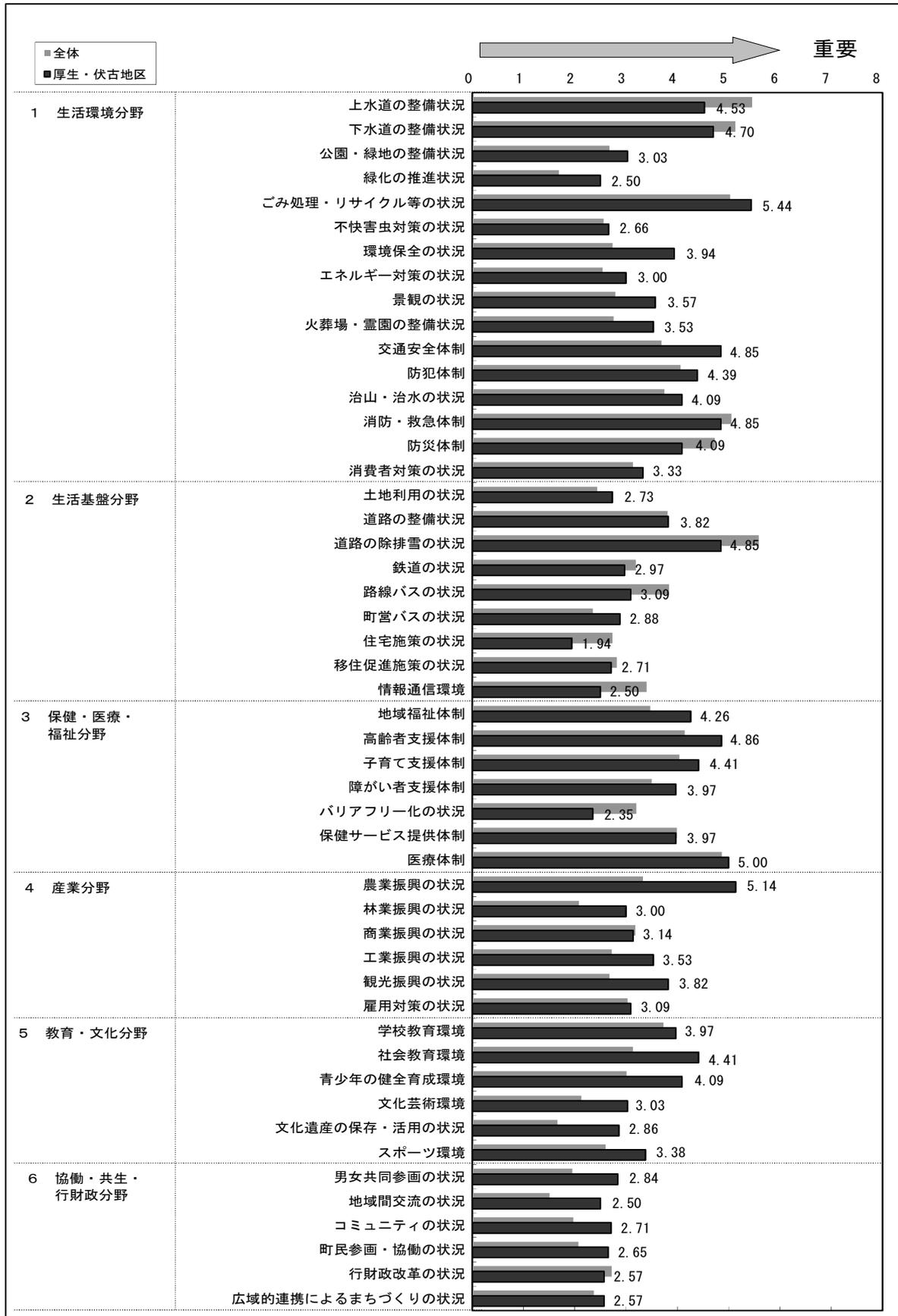
金富地区

（単位：評価点）



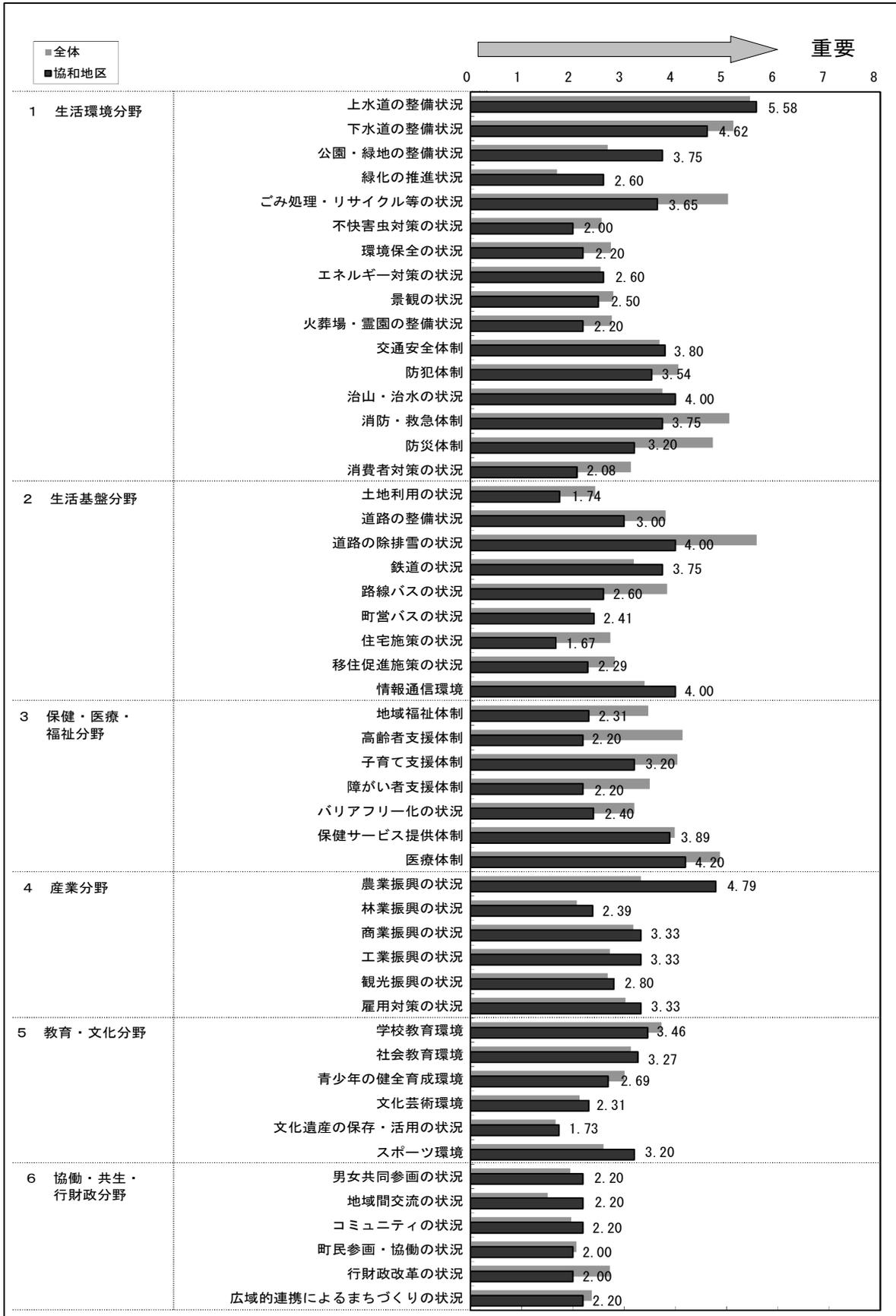
厚生・伏古地区

(単位：評価点)



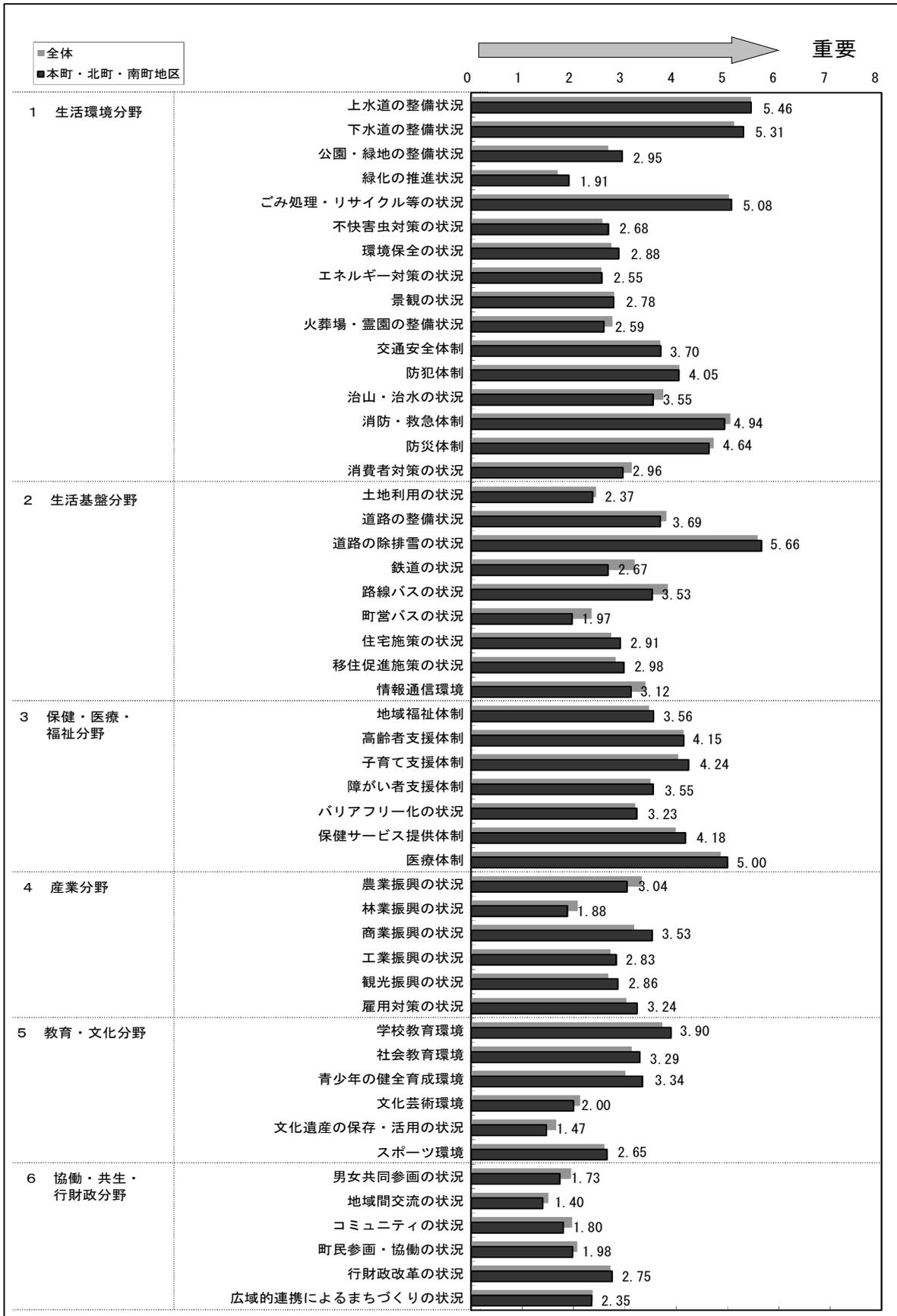
協和地区

(単位：評価点)



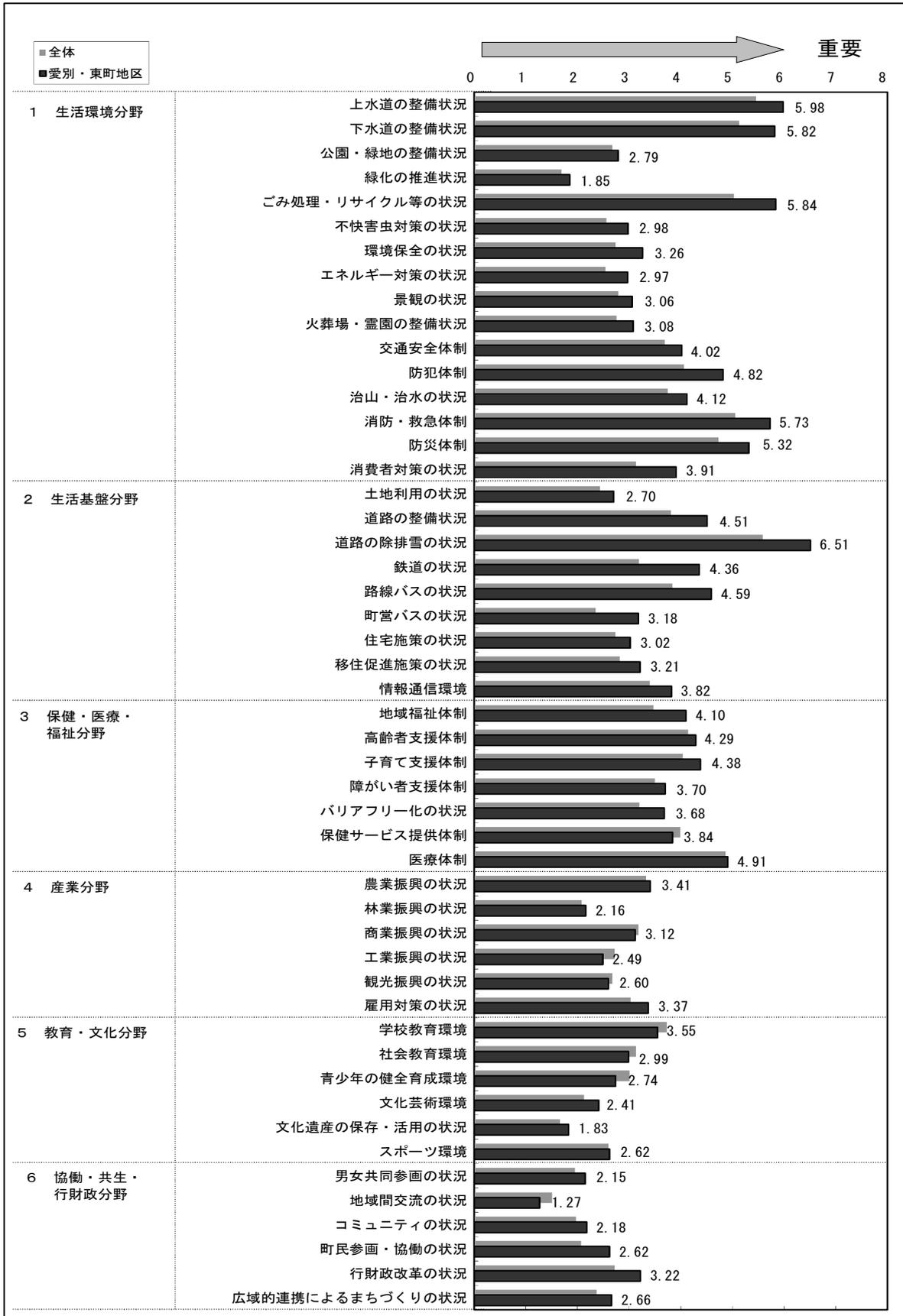
本町・北町・南町地区

(単位：評価点)



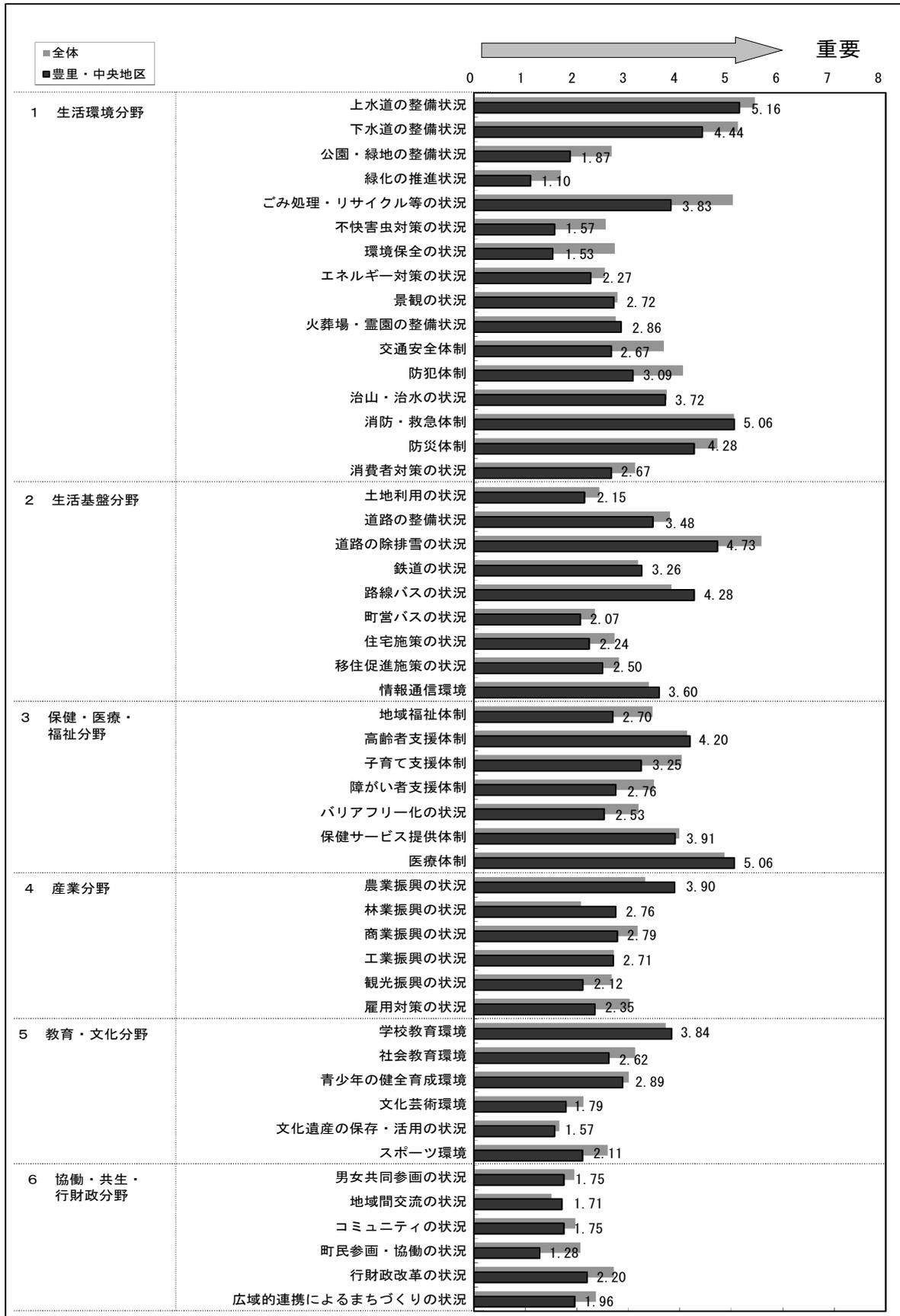
愛別・東町地区

(単位：評価点)



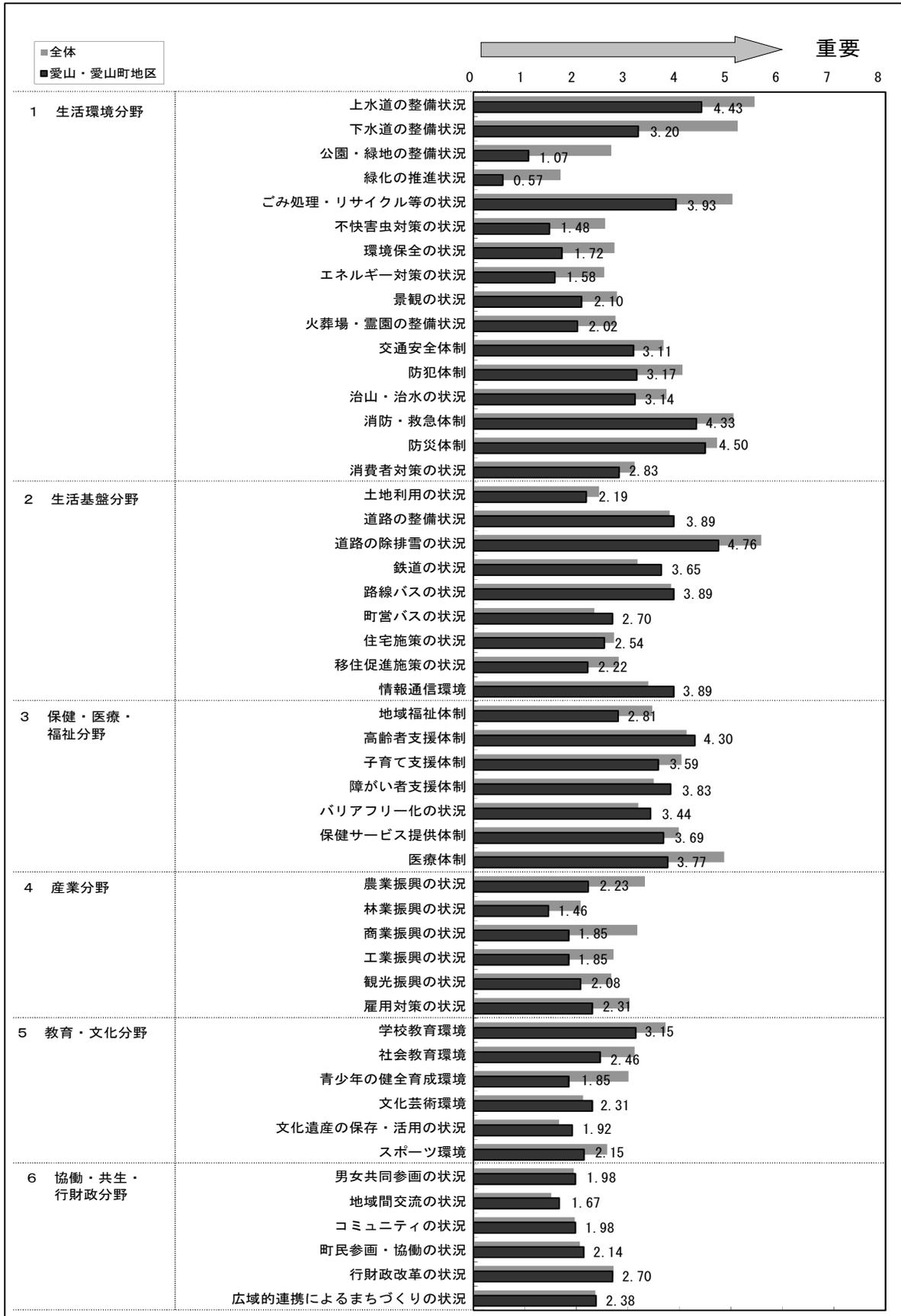
豊里・中央地区

(単位：評価点)



愛山・愛山町地区

(単位：評価点)



(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

● 満足度と重要度の相関からみた優先度が最も高い項目は「医療体制」。次いで「道路の除排雪の状況」、「商業振興の状況」の順。

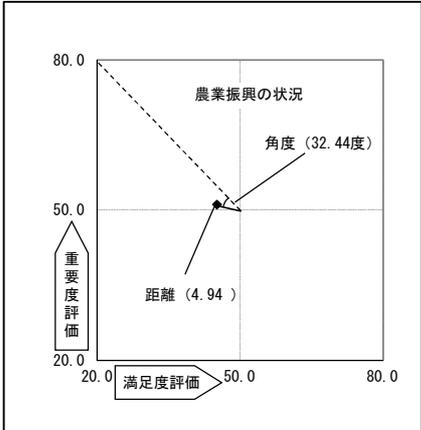
これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図による数量化【後述参照】で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

この結果をみると、優先度は、「医療体制」（16.66 点）が第 1 位で、次いで「道路の除排雪の状況」（12.83 点）、「商業振興の状況」（8.66 点）、「雇用対策の状況」（8.41 点）、「観光振興の状況」（5.44 点）などの順となっています。【図表 10・11 参照】

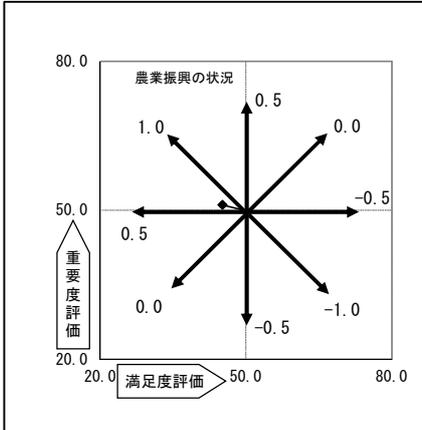
※散布図による評価点（優先度）の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「農業振興の状況」→満足度偏差値 45.18…、重要度偏差値 51.07…
- ② ①で算出した偏差値から、平均（中心）からの距離を算出する。
例：「農業振興の状況」→ $4.94 \dots = \sqrt{(45.18-50)^2 + (51.07-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「農業振興の状況」→32.44 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「農業振興の状況」→ $0.6395 = (90-32.44) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「農業振興の状況」→ $3.16 = 4.94 \dots \times 0.6395 \dots$

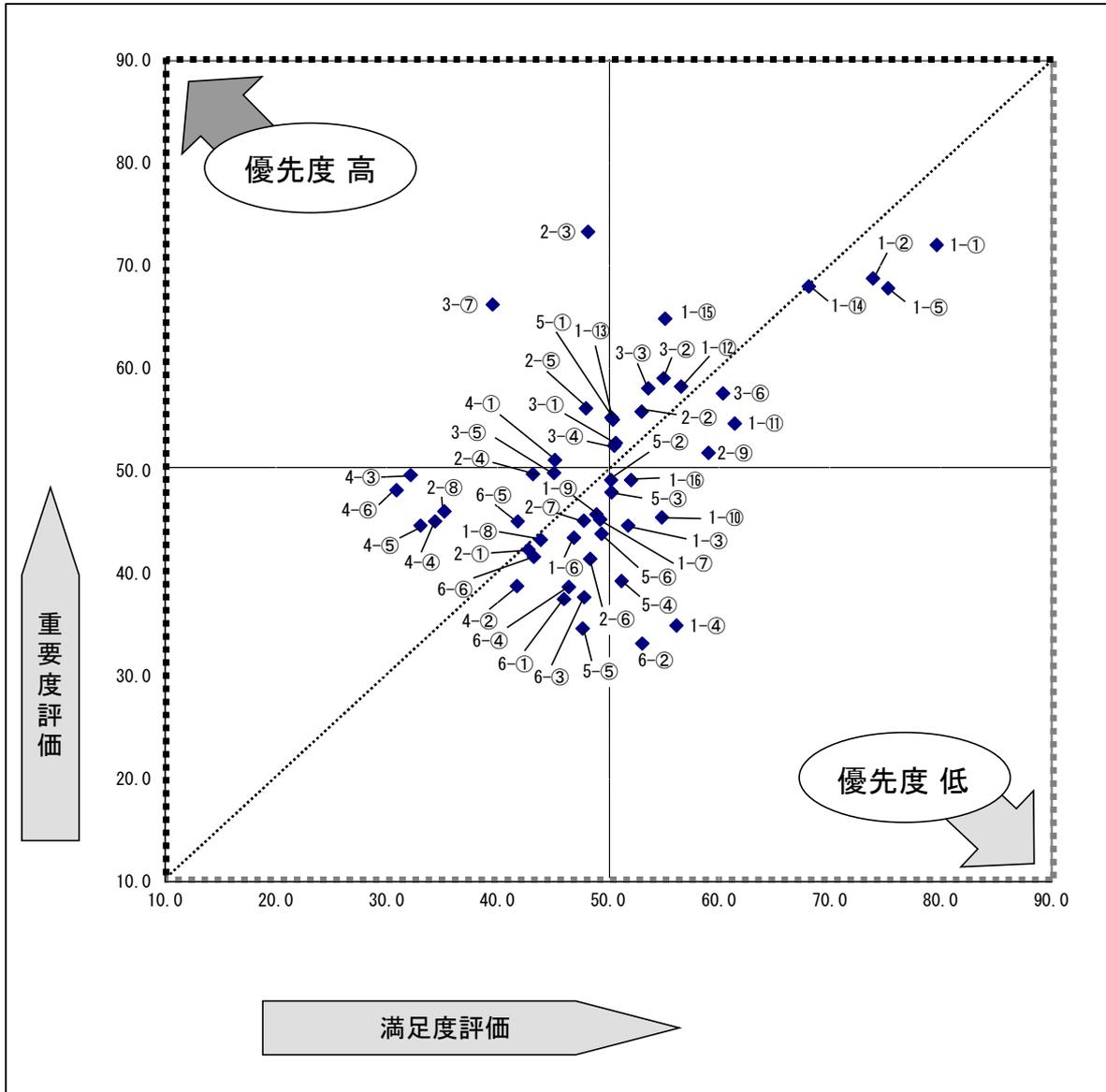
距離・角度



指数の設定



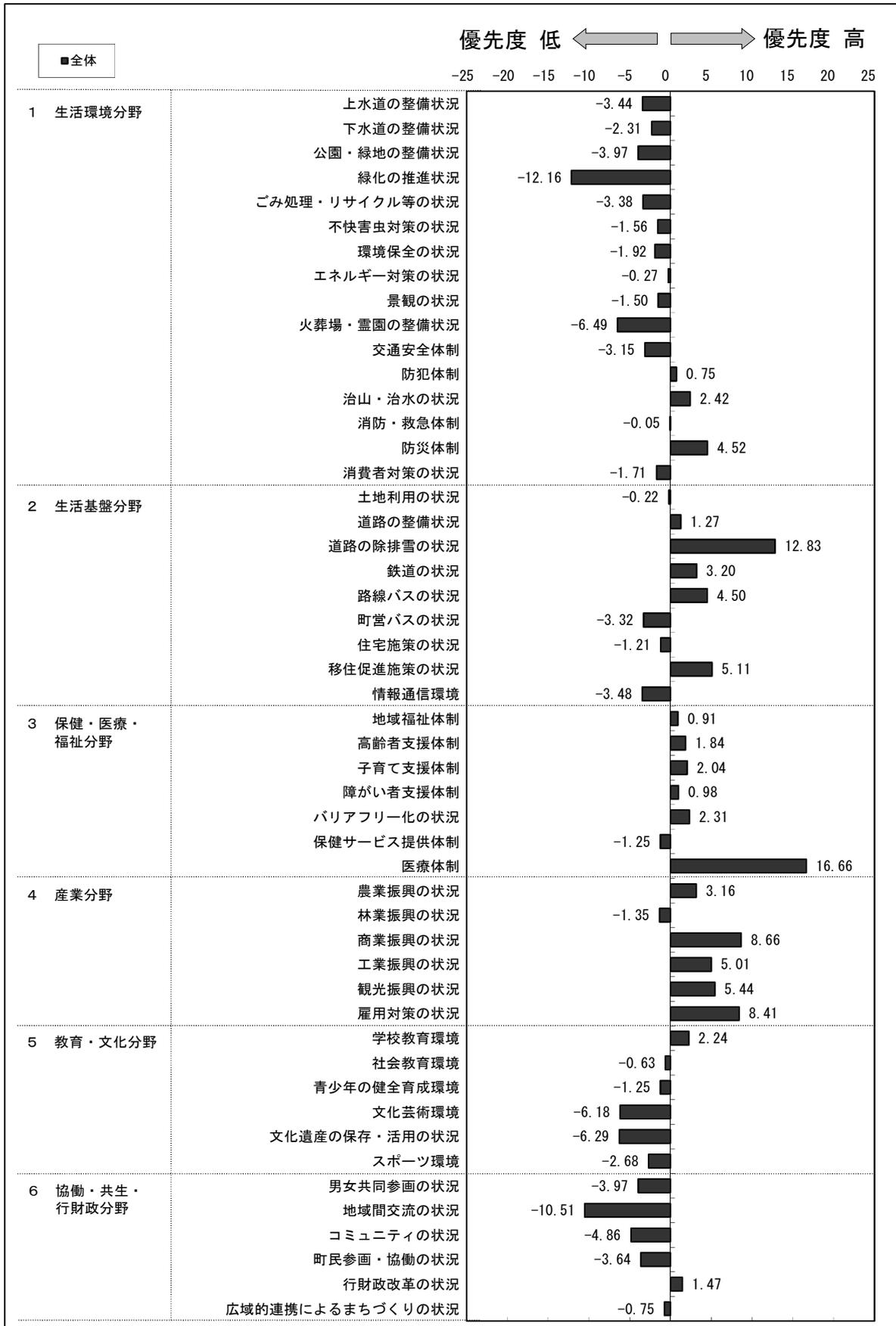
図表 10 満足度と重要度の相関（全体／優先度）



優先度高い		優先度低い	
3-7 医療体制	6-5 行財政改革の状況	1-4 緑化の推進状況	1-2 下水道の整備状況
2-3 道路の除排雪の状況	2-2 道路の整備状況	6-2 地域間交流の状況	1-7 環境保全の状況
4-3 商業振興の状況	3-4 障がい者支援体制	1-10 火葬場・霊園の整備状況	1-16 消費者対策の状況
4-6 雇用対策の状況	3-1 地域福祉体制	5-5 文化遺産の保存・活用の状況	1-6 不快感対策の状況
4-5 観光振興の状況	1-12 防犯体制	5-4 文化芸術環境	1-9 景観の状況
2-8 移住促進施策の状況		6-3 コミュニティの状況	4-2 林業振興の状況
4-4 工業振興の状況		6-1 男女共同参画の状況	3-6 保健サービス提供体制
1-15 防災体制		1-3 公園・緑地の整備状況	5-3 青少年の健全育成環境
2-5 路線バスの状況		6-4 町民参画・協働の状況	2-7 住宅施策の状況
2-4 鉄道の状況		2-9 情報通信環境	6-6 広域的連携によるまちづくりの状況
4-1 農業振興の状況		1-1 上水道の整備状況	5-2 社会教育環境
1-13 治山・治水の状況		1-5 ごみ処理・リサイクル等の状況	1-8 エネルギー対策の状況
3-5 パリアフリー化の状況		2-6 町営バスの状況	2-1 土地利用の状況
5-1 学校教育環境		1-11 交通安全体制	1-14 消防・救急体制
3-3 子育て支援体制		5-6 スポーツ環境	
3-2 高齢者支援体制			

図表 11 満足度と重要度の相関（全体／優先度）

（単位：評価点）



(4) 今後のまちづくりの特色

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、愛別町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

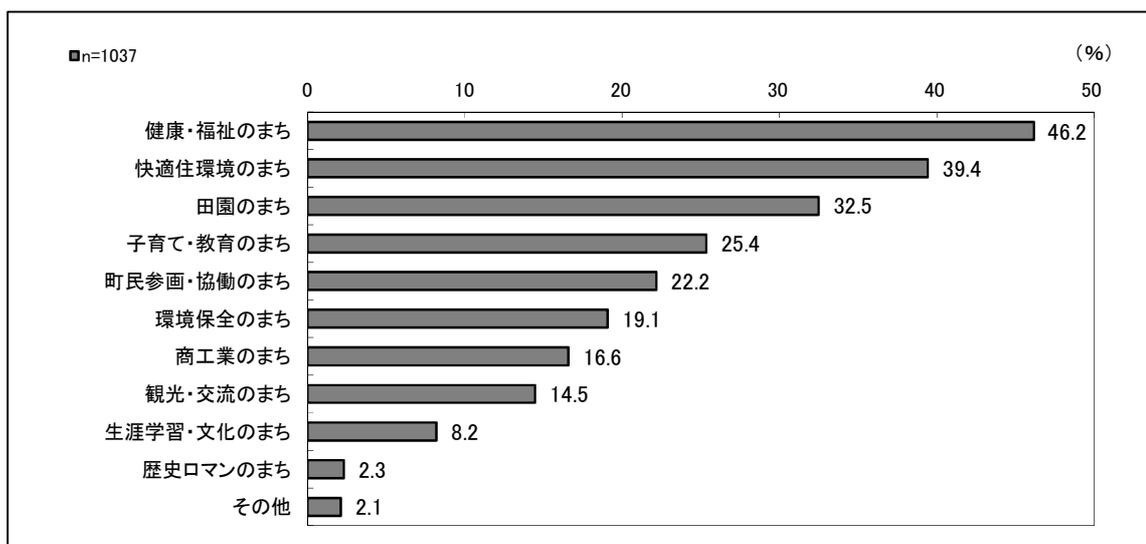
- 「健康・福祉のまち」が第1位。次いで「快適住環境のまち」、「田園のまち」の順。

今後、本町をどのような特色のあるまちにすべきかについては、「健康・福祉のまち」(46.2%)が第1位にあげられ、次いで「快適住環境のまち」(39.4%)が第2位、「田園のまち」(32.5%)が第3位となっており、“健康・福祉のまちづくり”をはじめ、“快適で安全・安心な住環境の整備”、“農業・農村環境の整備・保全”に町民の関心が集まっていることがうかがえます。

これら以外では、「子育て・教育のまち」(25.4%)、「町民参画・協働のまち」(22.2%)、「環境保全のまち」(19.1%)などの順となっています。

属性別でみると、多くの属性で第1位は全体と同様に「健康・福祉のまち」となっていますが、10・20代と30代では「子育て・教育のまち」(37.3%・61.3%)、40代と50代、金富地区では「快適住環境のまち」(46.3%・45.7%・46.9%、金富地区では「田園のまち」と同率1位)、金富地区と厚生・伏古地区、協和地区では「田園のまち」(46.9%・68.3%・46.9%)が第1位となっており、子育て中の年代では“子育て環境や子どもの保育・教育環境の充実”、中年層では“快適で安全・安心な住環境の整備”、金富地区と厚生・伏古地区、協和地区では“農業・農村環境の整備・保全”を望む声が強くなっています。[図表12・13参照]

図表12 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



図表 13 今後のまちづくりの特色（全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康・福祉のまち 46.2	快適住環境のまち 39.4	田園のまち 32.5
性別	男性	健康・福祉のまち 43.3	快適住環境のまち 40.3	田園のまち 37.4
	女性	健康・福祉のまち 48.6	快適住環境のまち 38.6	田園のまち 28.6
年齢	10・20代	子育て・教育のまち 37.3	快適住環境のまち 33.9	田園のまち 32.2
	30代	子育て・教育のまち 61.3	快適住環境のまち 48.4	健康・福祉のまち 33.9
	40代	快適住環境のまち 46.3	健康・福祉のまち 45.5	子育て・教育のまち 42.1
	50代	快適住環境のまち 45.7	健康・福祉のまち 39.7	子育て・教育のまち 30.2
	60代	健康・福祉のまち 44.6	快適住環境のまち 42.3	田園のまち 30.6
	70歳以上	健康・福祉のまち 52.4	田園のまち 35.0	快適住環境のまち 34.4
居住地区	金富地区	快適住環境のまち／田園のまち 46.9		健康・福祉のまち 42.9
	厚生・伏古地区	田園のまち 68.3	健康・福祉のまち 48.8	快適住環境のまち／町民 参画・協働のまち 29.3
	協和地区	田園のまち 46.9	健康・福祉のまち 40.6	子育て・教育のまち 28.1
	本町・北町・南町 地区	健康・福祉のまち 47.8	快適住環境のまち 42.9	子育て・教育のまち 28.9
	愛別・東町地区	健康・福祉のまち 44.0	快適住環境のまち 39.2	田園のまち 34.9
	豊里・中央地区	健康・福祉のまち 43.5	田園のまち 37.0	快適住環境のまち 36.1
	愛山・愛山町地区	健康・福祉のまち 51.3	快適住環境のまち 32.1	田園のまち 30.8

3 日頃の行動などについて

(1) 日頃の行動

① 地元の公園の維持管理への参加

問7① あなたは、地元の公園の維持管理（草刈りや清掃など）に参加していますか。

● 地元の公園の維持管理に参加している人は34.8%。

地元の公園の維持管理への参加については、「している」と答えた人が34.8%、「していない」と答えた人が61.4%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、男性（42.7%）が女性（28.2%）を約15ポイント上回っています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、60代（44.1%）や70歳以上（38.1%）では4割前後と高い一方、10・20代（11.9%）では1割強程度と低くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区（70.7%）が目立って高く、協和地区（21.9%）と本町・北町・南町地区（26.6%）が目立って低くなっています。[図表14参照]

図表14 地元の公園の維持管理への参加（全体・性別・年齢・居住地区）

		（%）			n
		している	していない	無回答	
性別	全体	34.8	61.4	3.8	1037
	男性	42.7	54.6	2.8	471
	女性	28.2	67.1	4.6	560
年齢	10・20代	11.9	84.7	3.4	59
	30代	25.8	71.0	3.2	62
	40代	26.4	73.6	0.0	121
	50代	29.3	68.1	2.6	116
	60代	44.1	53.6	2.3	222
	70歳以上	38.1	56.2	5.7	454
	居住地区	金富地区	55.1	42.9	2.0
厚生・伏古地区		70.7	29.3	0.0	41
協和地区		21.9	71.9	6.3	32
本町・北町・南町地区		26.6	69.5	3.9	508
愛別・東町地区		40.7	55.5	3.8	209
豊里・中央地区		40.7	56.5	2.8	108
愛山・愛山町地区		37.2	56.4	6.4	78

② 緑化活動

問7② あなたは、緑化活動（植樹や花づくり）をしていますか。

● 緑化活動をしている人は41.0%。

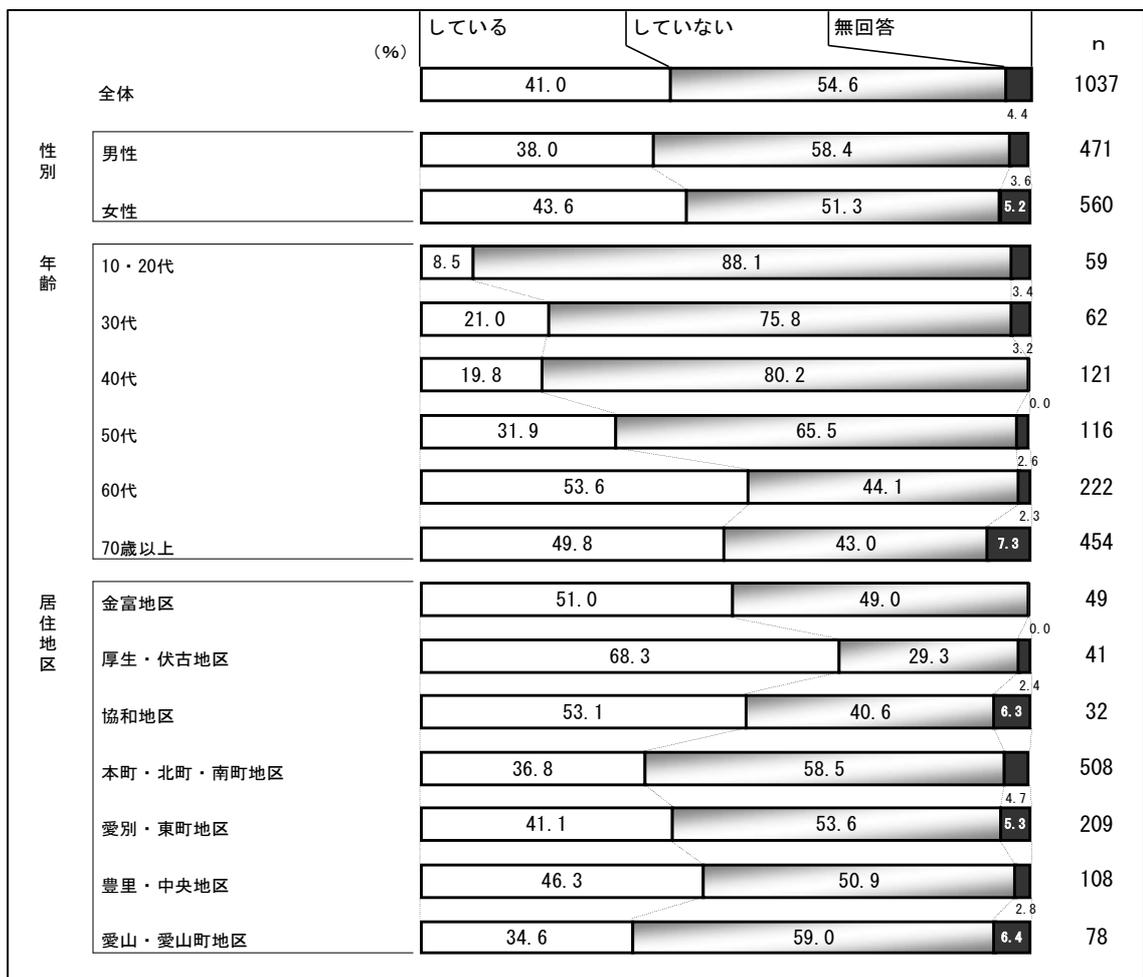
緑化活動については、「している」と答えた人が41.0%、「していない」と答えた人が54.6%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性（43.6%）が男性（38.0%）を約6ポイント上回っています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、60代（53.6%）や70歳以上（49.8%）では半数前後と高い一方、10・20代（8.5%）では1割に満たず低くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区（68.3%）が目立って高く、愛山・愛山町地区（34.6%）と本町・北町・南町地区（36.8%）が目立って低くなっています。[図表15参照]

図表15 緑化活動（全体・性別・年齢・居住地区）



③ 3 R運動

問7③ あなたは、ごみの減量化のため、3 R運動【リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生使用）】をしていますか。

● 3 R運動をしている人は70.1%。

3 R運動については、「している」と答えた人が70.1%、「していない」と答えた人が24.9%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別ではほとんど変わらず、年齢別では、60代（77.9%）・50代（70.7%）で比較的高くなっています。

居住地区別では、愛別・東町地区（74.2%）と金富地区（73.5%）、本町・北町・南町地区（71.9%）で7割を超えて高く、協和地区（59.4%）で6割に満たず目立って低くなっています。[図表16参照]

図表16 3 R運動（全体・性別・年齢・居住地区）

		(%)	している	していない	無回答	n
性別	全体		70.1	24.9	5.0	1037
	男性		69.6	26.8	3.6	471
	女性		70.4	23.4	6.3	560
年齢	10・20代		66.1	30.5	3.4	59
	30代		62.9	33.9	3.2	62
	40代		67.8	32.2	0.0	121
	50代		70.7	26.7	2.6	116
	60代		77.9	19.4	2.7	222
	70歳以上		68.5	23.1	8.4	454
	居住地区	金富地区		73.5	22.4	4.1
厚生・伏古地区			63.4	34.1	2.4	41
協和地区			59.4	31.3	9.4	32
本町・北町・南町地区			71.9	23.4	4.7	508
愛別・東町地区			74.2	20.1	5.7	209
豊里・中央地区			63.0	34.3	2.8	108
愛山・愛山町地区			62.8	29.5	7.7	78

④ 環境に配慮した生活

問7④ あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

● 環境に配慮した生活をしている人は63.2%。

環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が63.2%、「していない」と答えた人が29.9%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別ではほとんど変わらず、年齢別では、60代(72.5%)で7割を超えて高くなっています。

居住地区別では、他地区に比べ、愛山・愛山町地区(51.3%)と厚生・伏古地区(53.7%)で低くなっています。[図表17参照]

図表17 環境に配慮した生活（全体・性別・年齢・居住地区）

		(%)	している	していない	無回答	n
性別	全体		63.2	29.9	6.9	1037
	男性		62.6	32.7	4.7	471
	女性		63.6	27.5	8.9	560
年齢	10・20代		57.6	39.0	3.4	59
	30代		58.1	37.1	4.8	62
	40代		62.0	38.0	0.0	121
	50代		59.5	37.9	2.6	116
	60代		72.5	23.9	3.6	222
	70歳以上		61.5	26.4	12.1	454
	居住地区	金富地区		65.3	24.5	10.2
厚生・伏古地区			53.7	39.0	7.3	41
協和地区			59.4	31.3	9.4	32
本町・北町・南町地区			65.7	27.0	7.3	508
愛別・東町地区			64.6	29.2	6.2	209
豊里・中央地区			60.2	36.1	3.7	108
愛山・愛山町地区			51.3	41.0	7.7	78

⑤ 防犯活動・パトロール活動

問7⑤ あなたは、身近な地域での防犯活動・パトロール活動に参加していますか。

● 防犯活動・パトロール活動に参加している人は10.0%。

防犯活動・パトロール活動への参加については、「している」と答えた人が10.0%、「していない」と答えた人が81.5%となっており、他の項目に比べ、参加率が非常に低くなっています。

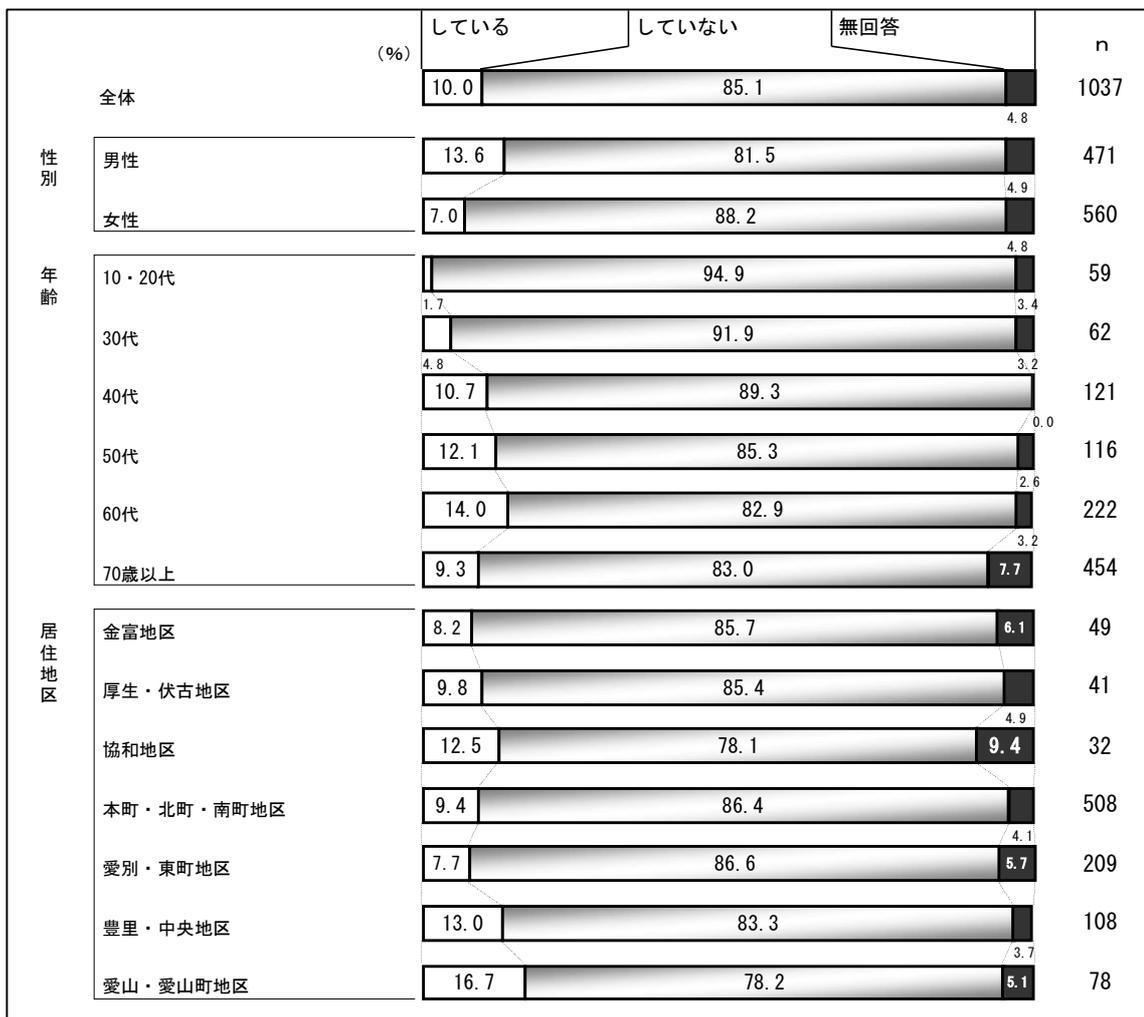
属性別で「している」率をみると、性別では、男性（13.6%）が女性（7.0%）を約7ポイント上回っています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にありますが、最も高い60代（14.0%）でも1割強程度にとどまっています。

居住地区別では、他地区に比べ、愛山・愛山町地区（16.7%）で高くなっています。

[図表 18 参照]

図表 18 防犯活動・パトロール活動（全体・性別・年齢・居住地区）



⑥ 災害時の避難路・避難場所

問7⑥ あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

● 災害時の避難路・避難場所を知っている人は64.1%。

災害時の避難路・避難場所については、「知っている」と答えた人が64.1%、「知らない」と答えた人が32.4%となっています。

属性別で「知っている」率をみると、性別では、男性（66.9%）が女性（61.8%）を約5ポイント上回っています。

年齢別では、50代（69.0%）と60代（68.9%）で比較的高くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区（80.5%）と協和地区（78.1%）で8割前後と高く、豊里・中央地区（58.3%）で6割に満たず目立って低くなっています。[図表 19 参照]

図表 19 災害時の避難路・避難場所（全体・性別・年齢・居住地区）

		(%)	知っている	知らない	無回答	n
	全体		64.1	32.4	3.5	1037
性別	男性		66.9	29.9	3.2	471
	女性		61.8	34.5	3.8	560
年齢	10・20代		57.6	40.7	1.7	59
	30代		58.1	38.7	3.2	62
	40代		58.7	41.3	0.0	121
	50代		69.0	28.4	2.6	116
	60代		68.9	29.3	1.8	222
	70歳以上		63.7	30.6	5.7	454
	居住地区	金富地区		69.4	28.6	2.0
厚生・伏古地区			80.5	17.1	2.4	41
協和地区			78.1	18.8	3.1	32
本町・北町・南町地区			62.0	35.2	2.8	508
愛別・東町地区			67.0	28.7	4.3	209
豊里・中央地区			58.3	37.0	4.6	108
愛山・愛山町地区			62.8	30.8	6.4	78

⑦ 防火・防災訓練への参加

問7⑦ あなたは、この1年間に、防火・防災訓練に参加しましたか。

● 防火・防災訓練に参加した人は21.7%。

防火・防災訓練への参加については、「した」と答えた人が21.7%、「しなかった」と答えた人が74.5%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、男性（26.1%）が女性（17.9%）を約8ポイント上回っています。

年齢別では、30代（35.5%）と50代（32.8%）で3割を超えて高くなっています。

居住地区別では、愛山・愛山町地区（44.9%）で4割を超えて非常に高いほか、金富地区（36.7%）でも4割弱と高くなっています。[図表20参照]

図表20 防火・防災訓練への参加（全体・性別・年齢・居住地区）

		（%）			n
		した	しなかった	無回答	
性別	全体	21.7	74.5	3.8	1037
	男性	26.1	70.5	3.4	471
	女性	17.9	78.0	4.1	560
年齢	10・20代	20.3	74.6	5.1	59
	30代	35.5	61.3	3.2	62
	40代	28.9	71.1	0.0	121
	50代	32.8	65.5	1.7	116
	60代	23.9	73.9	2.3	222
	70歳以上	14.1	80.2	5.7	454
	居住地区	金富地区	36.7	57.1	6.1
厚生・伏古地区		19.5	80.5	0.0	41
協和地区		28.1	62.5	9.4	32
本町・北町・南町地区		19.1	77.8	3.1	508
愛別・東町地区		17.2	78.5	4.3	209
豊里・中央地区		17.6	78.7	3.7	108
愛山・愛山町地区		44.9	50.0	5.1	78

⑧ 地域福祉活動への参加

問7⑧ あなたは、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加していますか。

● 地域福祉活動に参加している人は24.8%

地域福祉活動への参加については、「している」と答えた人が24.8%、「していない」と答えた人が70.8%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、男性（28.0%）が女性（22.1%）を約6ポイント上回っています。

年齢別では、60代（35.1%）で4割弱と高い一方、40代（11.6%）や10・20代（11.9%）では1割強程度と低くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区（48.8%）で半数弱と目立って高く、本町・北町・南町地区（19.7%）で2割に満たず目立って低くなっています。〔図表21参照〕

図表21 地域福祉活動への参加（全体・性別・年齢・居住地区）

		参加状況 (%)			n
		している	していない	無回答	
全体		24.8	70.8	4.4	1037
性別	男性	28.0	68.4	3.6	471
	女性	22.1	72.7	5.2	560
年齢	10・20代	11.9	84.7	3.4	59
	30代	17.7	77.4	4.8	62
	40代	11.6	88.4	0.0	121
	50代	24.1	73.3	2.6	116
	60代	35.1	62.2	2.7	222
	70歳以上	26.0	67.2	6.8	454
居住地区	金富地区	30.6	65.3	4.1	49
	厚生・伏古地区	48.8	46.3	4.9	41
	協和地区	31.3	59.4	9.4	32
	本町・北町・南町地区	19.7	76.6	3.7	508
	愛別・東町地区	27.3	67.9	4.8	209
	豊里・中央地区	25.0	71.3	3.7	108
	愛山・愛山町地区	30.8	61.5	7.7	78

⑨ 健康増進のための取り組み

問7⑨ あなたは、日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

● 健康増進のための取り組みをしている人は65.7%。

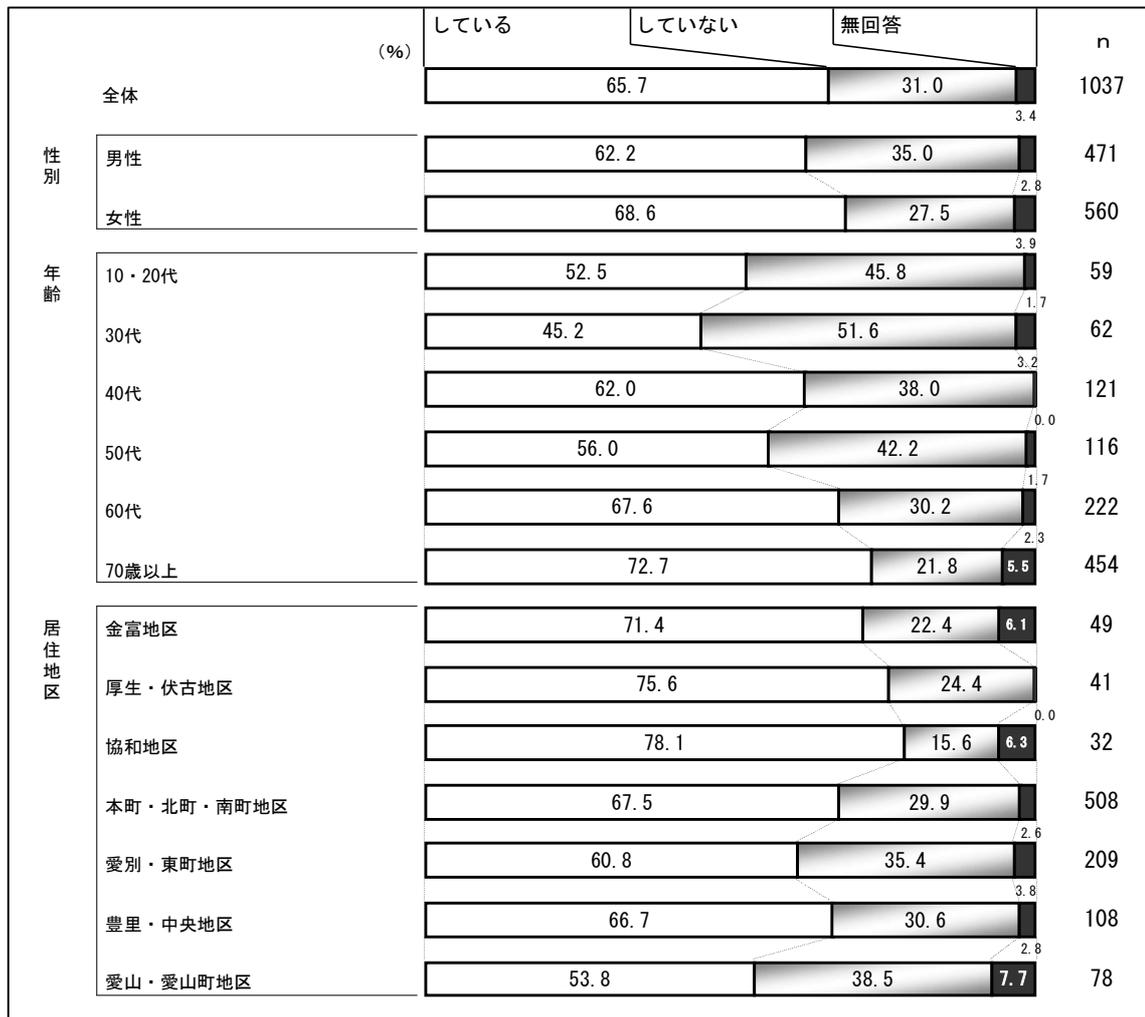
健康増進のための取り組みについては、「している」と答えた人が65.7%、「していない」と答えた人が31.0%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性（68.6%）が男性（62.2%）を約6ポイント上回っています。

年齢別では、70歳以上（72.7%）と60代（67.6%）で7割前後と高くなっていますが、30代（45.2%）では半数に満たず低くなっています。

居住地区別では、協和地区（78.1%）と厚生・伏古地区（75.6%）、金富地区（71.4%）で7割を超えて高く、愛山・愛山町地区（53.8%）で半数強と目立って低くなっています。[図表22参照]

図表22 健康増進のための取り組み（全体・性別・年齢・居住地区）



⑩ 町内の商店での買物

問 7⑩ あなたは、日頃、町内の商店で買物をしていますか。

● 町内の商店で買物をしている人は 78.2%。

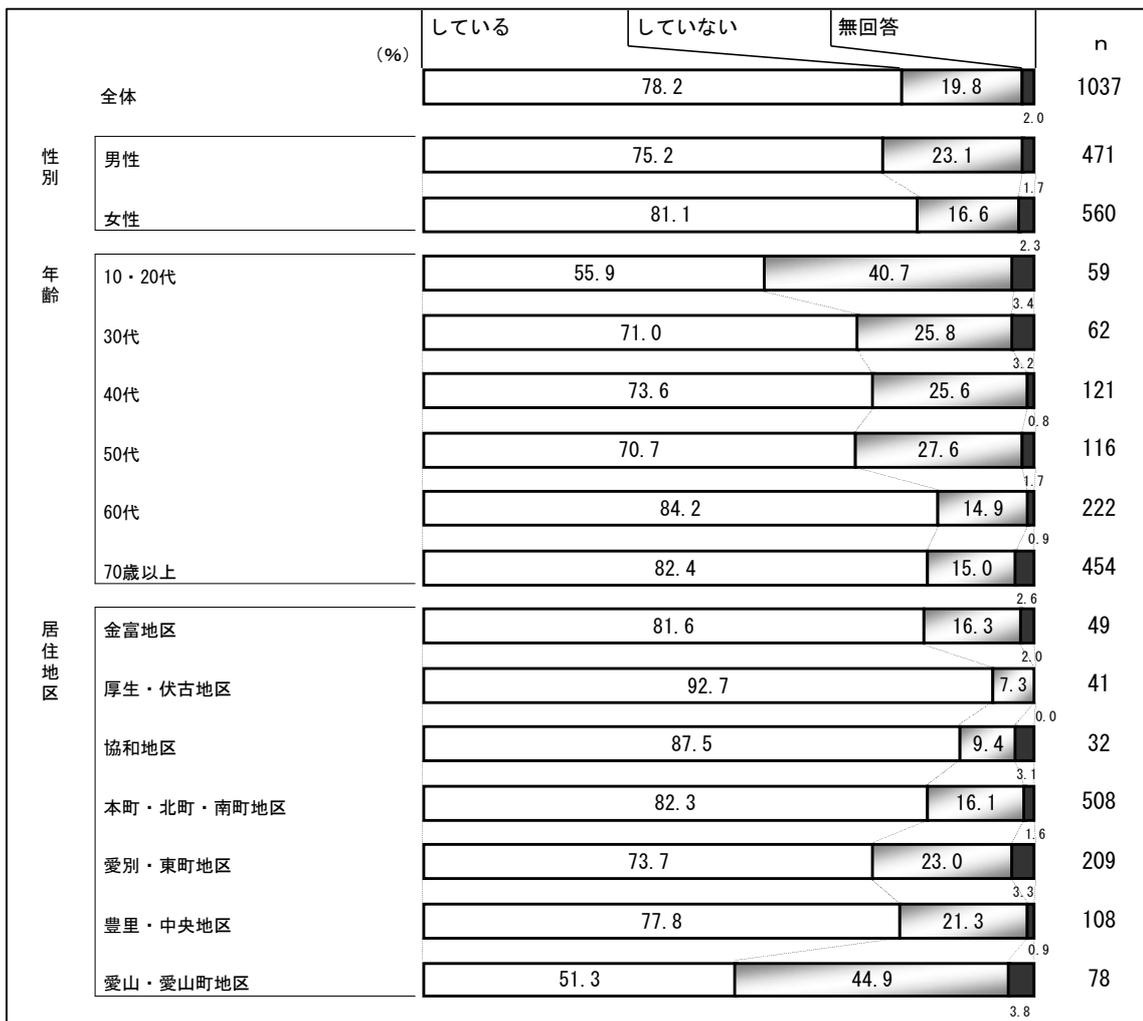
町内の商店での買物については、「している」と答えた人が 78.2%、「していない」と答えた人が 19.8%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性（81.1%）が男性（75.2%）を約 6 ポイント上回っています。

年齢別では、60 代（84.2%）と 70 歳以上（82.4%）で 8 割を超えて高くなっていますが、10・20 代（55.9%）では 6 割に満たず低くなっています。

居住地区別では、厚生・伏古地区（92.7%）で 9 割を超えて目立って高く、愛山・愛山町地区（51.3%）で半数強にとどまり目立って低くなっています。[図表 23 参照]

図表 23 町内の商店での買物（全体・性別・年齢・居住地区）



⑪ 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動

問7⑪ あなたは、この1年間に、町の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

● 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動をした人は19.6%。

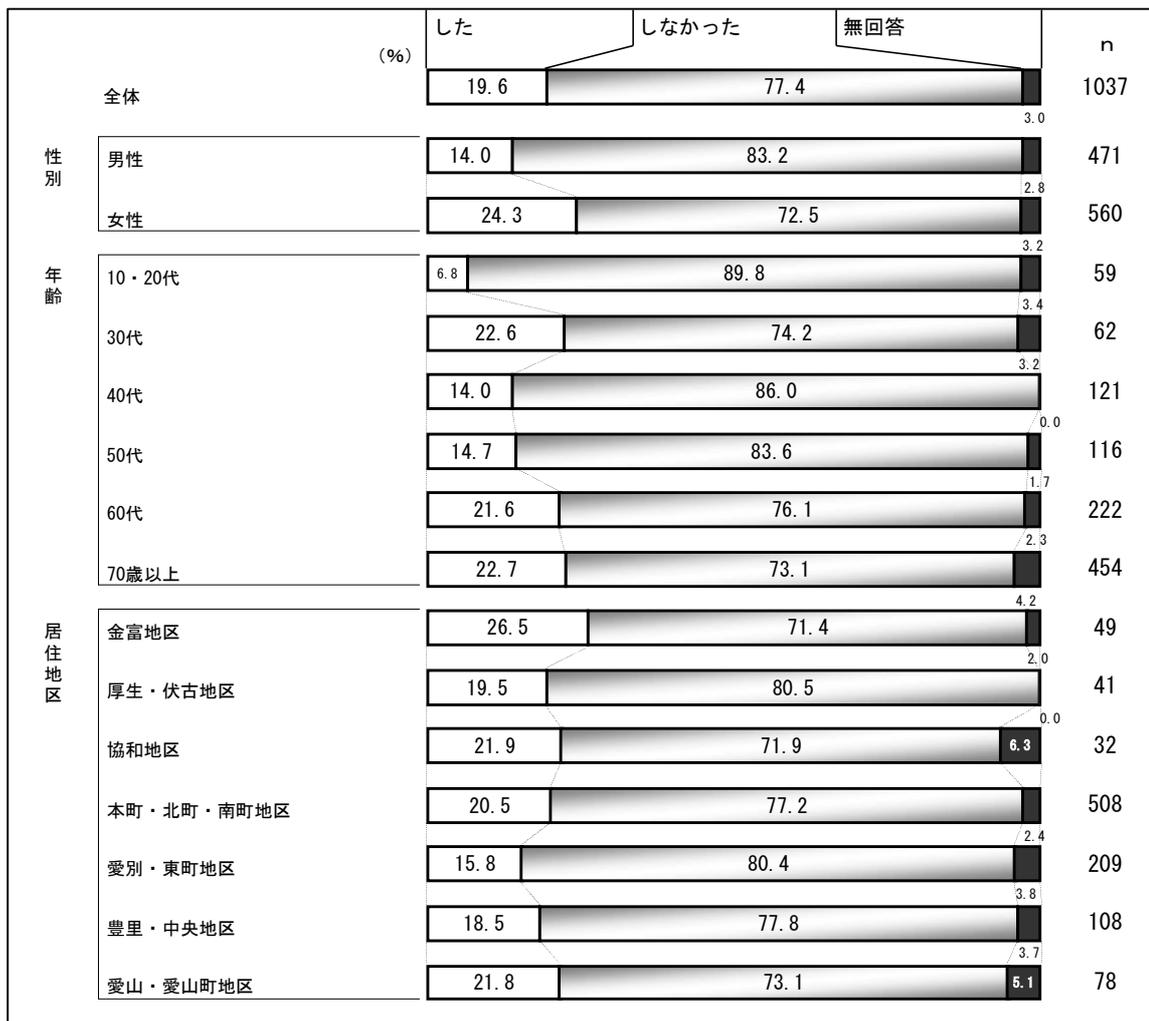
町の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「した」と答えた人が19.6%、「しなかった」と答えた人が77.4%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、女性（24.3%）が男性（14.0%）を約10ポイント上回っています。

年齢別では、70歳以上（22.7%）と30代（22.6%）、60代（21.6%）で比較的高くなっています。

居住地区別では、他地区に比べ、金富地区（26.5%）が目立って高く、愛別・東町地区（15.8%）が目立って低くなっています。[図表24参照]

図表24 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動（全体・性別・年齢・居住地区）



⑫ 週1回以上のスポーツ活動

問7⑫ あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

● 週1回以上、スポーツ活動をしている人は30.5%。

週1回以上のスポーツ活動については、「している」と答えた人が30.5%、「していない」と答えた人が66.2%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、男性（31.8%）が女性（29.5%）を約2ポイントとわずかに上回っています。

年齢別では、他の年代に比べ、50代（21.6%）の低さが目立つ結果となっています。

居住地区別では、本町・北町・南町地区（36.8%）で4割弱と目立って高く、愛山・愛山町地区（19.2%）と厚生・伏古地区（19.5%）で2割に満たず低くなっています。

[図表25参照]

図表25 週1回以上のスポーツ活動（全体・性別・年齢・居住地区）

		(%)	している	していない	無回答	n
性別	全体	30.5	66.2	3.4	1037	
	男性	31.8	65.8	2.3	471	
	女性	29.5	66.3	4.3	560	
年齢	10・20代	28.8	67.8	3.4	59	
	30代	27.4	69.4	3.2	62	
	40代	31.4	68.6	0.0	121	
	50代	21.6	76.7	1.7	116	
	60代	30.2	68.0	1.8	222	
	70歳以上	33.0	61.5	5.5	454	
	居住地区	金富地区	28.6	67.3	4.1	49
厚生・伏古地区		19.5	78.0	2.4	41	
協和地区		21.9	71.9	6.3	32	
本町・北町・南町地区		36.8	60.4	2.8	508	
愛別・東町地区		27.8	67.9	4.3	209	
豊里・中央地区		21.3	77.8	0.9	108	
愛山・愛山町地区		19.2	74.4	6.4	78	

⑬ 広報あいべつ

問 7 ⑬ あなたは、広報あいべつを読んでいますか。

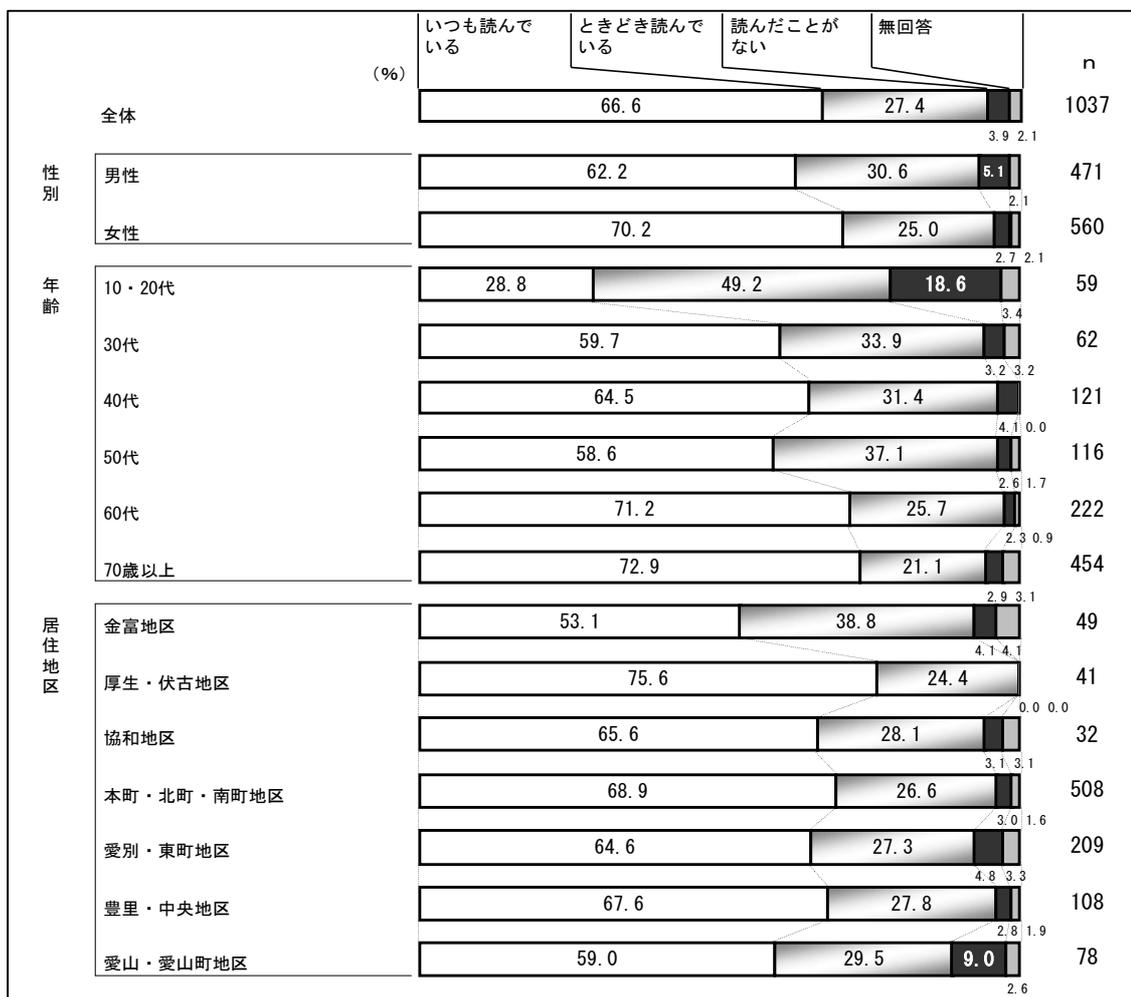
● 広報あいべつを“読んでいる”人は94.0%。

広報あいべつについては、「いつも読んでいる」と答えた人が66.6%、「ときどき読んでいる」と答えた人が27.4%で、これらをあわせた“読んでいる”人が94.0%となっています。一方、「読んだことがない」と答えた人は3.9%となっています。

属性別でみると、“読んでいる”率では、10・20代（78.0%）と愛山・愛山町地区（88.5%）でやや低い以外はすべての層で9割を超えています。

また、「いつも読んでいる」率では、性別では、女性（70.2%）が男性（62.2%）を8ポイント上回り、年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇し、60代（71.2%）と70歳以上（72.9%）では7割を超えて高い一方、10・20代（28.8%）では3割に満たず目立って低く、居住地区別では、厚生・伏古地区（75.6%）で目立って高く、愛山・愛山町地区（59.0%）で目立って低くなっています。[図表 26 参照]

図表 26 広報あいべつ（全体・性別・年齢・居住地区）



⑭ 町のホームページ

問7⑭ あなたは、町のホームページを見たことがありますか。

● 町のホームページを“見ている”人は47.7%。

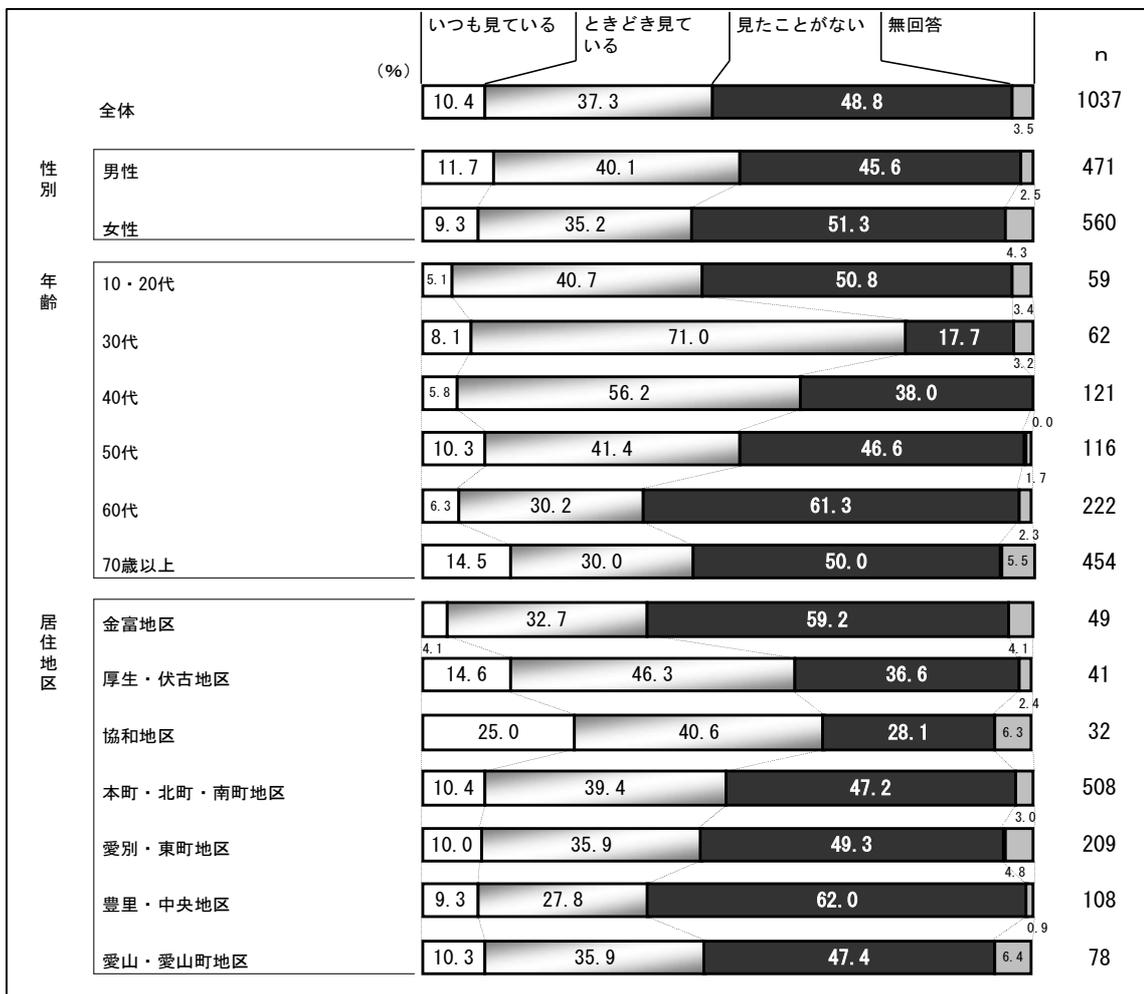
町のホームページについては、「いつも見ている」と答えた人が10.4%、「ときどき見ている」と答えた人が37.3%で、これらをあわせた“見ている”という人が47.7%となっています。一方、「見たことがない」と答えた人は48.8%となっています。

属性別で“見ている”率をみると、性別では、男性（51.8%）が女性（44.5%）を約7ポイント上回っています。

年齢別では、30代（79.1%）で約8割と最も高く、次いで40代（62.0%）、50代（51.7%）、10・20代（45.8%）、70歳以上（44.5%）、60代（36.5%）の順で、高齢層で低くなっています。

居住地区別では、協和地区（65.6%）と厚生・伏古地区（60.9%）が目立って高く、金富地区（36.8%）と豊里・中央地区（37.1%）が目立って低くなっています。[図表27参照]

図表27 町のホームページ（全体・性別・年齢・居住地区）



⑮ スマートフォンの利用

問7⑮ あなたは、スマートフォン（パソコンのように多機能で、画面にタッチすることで操作できる携帯電話）を利用していますか。

● スマートフォンを利用している人は44.6%。

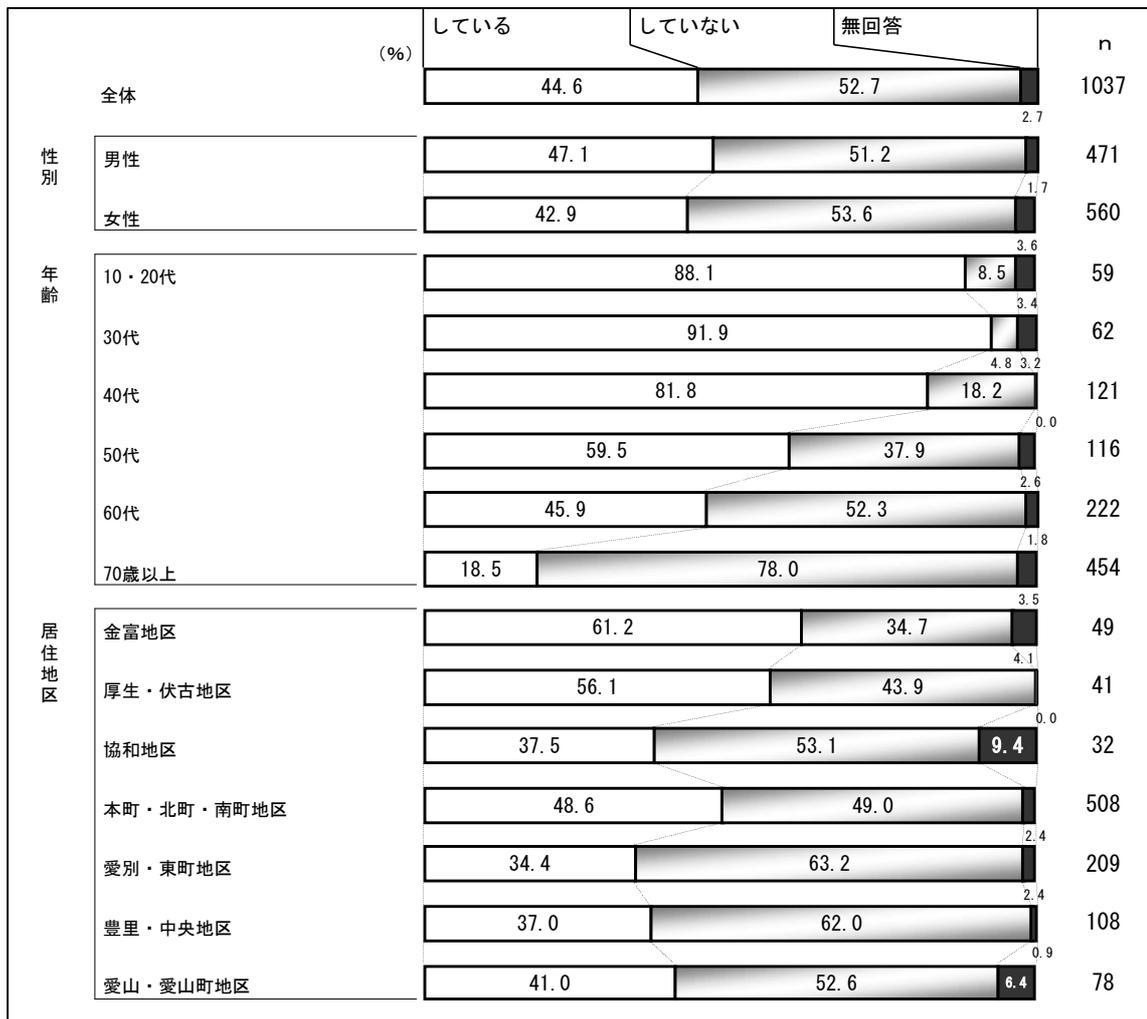
スマートフォンの利用については、「している」と答えた人が44.6%、「していない」と答えた人が52.7%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、男性（47.1%）が女性（42.9%）を約4ポイント上回っています。

年齢別では、30代（91.9%）と10・20代（88.1%）で9割前後と非常に高く、40代以降の層では徐々に低下していく傾向にあり、60代（45.9%）では半数を切り、70歳以上（18.5%）では2割に満たず低くなっています。

居住地区別では、金富地区（61.2%）と厚生・伏古地区（56.1%）で6割前後と高く、愛別・東町地区（34.4%）で3割強と低くなっています。[図表28参照]

図表28 スマートフォンの利用（全体・性別・年齢・居住地区）



4 参画・協働のまちづくりについて

(1) 町民参画・協働のまちづくりを進めるために必要なこと

問8 これからのまちづくりにおいては、より多くの町民の皆様が町政に参画し、行政と協力して課題解決や地域づくりを行う「町民参画・協働のまちづくり」が重要なテーマとなります。あなたは、この「町民参画・協働のまちづくり」を進めるために行政として必要なことはなんだと思いますか。

- 「広聴活動の充実」が第1位。次いで「広報活動の充実」、「公共施設管理などの町民・民間参画の促進」の順。

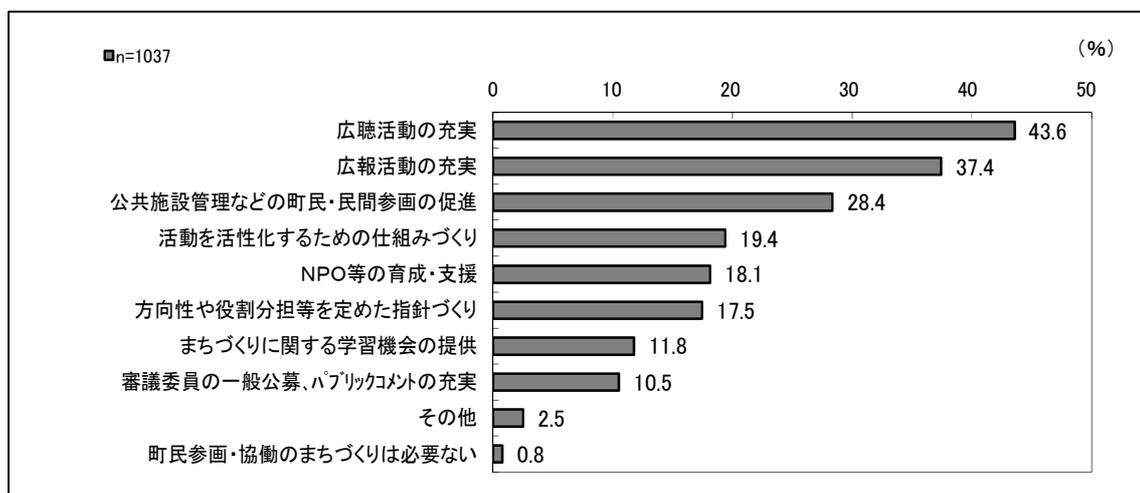
町民参画・協働のまちづくりを進めるために必要なことについては、「広聴活動の充実」(43.6%)が第1位にあげられ、次いで「広報活動の充実」(37.4%)が第2位、「公共施設管理などの町民・民間参画の促進」(28.4%)が第3位となっており、町民の意見や要望を聞く機会の充実をはじめ、行政情報の提供・公開、公共施設の整備・管理や公共サービスの提供への町民・民間の参画促進などが重視されています。

これら以外では、「活動を活性化するための仕組みづくり」(19.4%)、「NPO等の育成・支援」(18.1%)、「方向性や役割分担等を定めた指針づくり」(17.5%)、「まちづくりに関する学習機会の提供」(11.8%)「審議委員の一般公募、パブリックコメントの充実」(10.5%)などの順となっています。

属性別でみると、すべての層で第1位は「広聴活動の充実」あるいは「広報活動の充実」となっており、性別や年齢、居住地区にかかわらず、広聴・広報機能の強化が求められていることがうかがえるほか、10・20代と40代、金富地区では「公共施設管理などの町民・民間参画の促進」が第2位で、これらの層では公共施設の整備・管理や公共サービスの提供への町民・民間の参画促進を重視する人も多くなっています。

[図表 29・30 参照]

図表 29 町民参画・協働のまちづくりを進めるために必要なこと (全体/複数回答)



図表 30 町民参画・協働のまちづくりを進めるために必要なこと
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		広聴活動の充実 43.6	広報活動の充実 37.4	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 28.4
性別	男性	広聴活動の充実 49.3	広報活動の充実 41.6	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 30.4
	女性	広聴活動の充実 38.9	広報活動の充実 34.1	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 26.8
年齢	10・20代	広聴活動の充実 35.6	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 33.9	広報活動の充実 28.8
	30代	広聴活動の充実 45.2	広報活動の充実 38.7	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 30.6
	40代	広聴活動の充実 39.7	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 33.1	広報活動の充実 32.2
	50代	広聴活動の充実 39.7	広報活動の充実 38.8	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 28.4
	60代	広報活動の充実 48.6	広聴活動の充実 44.6	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 24.8
	70歳以上	広聴活動の充実 46.0	広報活動の充実 34.1	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 28.0
居住地区	金富地区	広報活動の充実 55.1	広聴活動の充実／公共施設管理などの町民・民間参画の促進 46.9	
	厚生・伏古地区	広報活動の充実 53.7	広聴活動の充実 43.9	方向性や役割分担等を定めた指針づくり 22.0
	協和地区	広報活動の充実／広聴活動の充実 34.4		活動を活性化するための仕組みづくり／NPO等の育成・支援 21.9
	本町・北町・南町地区	広聴活動の充実 42.7	広報活動の充実 34.3	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 28.3
	愛別・東町地区	広聴活動の充実 47.4	広報活動の充実 41.1	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 27.3
	豊里・中央地区	広聴活動の充実 48.1	広報活動の充実 30.6	公共施設管理などの町民・民間参画の促進 29.6
	愛山・愛山町地区	広報活動の充実／広聴活動の充実 35.9		公共施設管理などの町民・民間参画の促進 26.9

5 人口減少対策について

(1) 町内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと

※ 人口減少が進む中、全国各地で『地方創生』（人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力と魅力あふれる地方をつくり出すこと）に向けた取り組みが進められています。愛別町においても、平成 27 年度に「愛別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策を総合的に進めています。

そこで、この戦略の 4 つの柱である、「雇用」・「移住」・「結婚・出産・子育て」・「住み続けたい生活環境」についておたずねします。

問 9 あなたは、町内及び近隣市町での「雇用」を創出するため、町としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

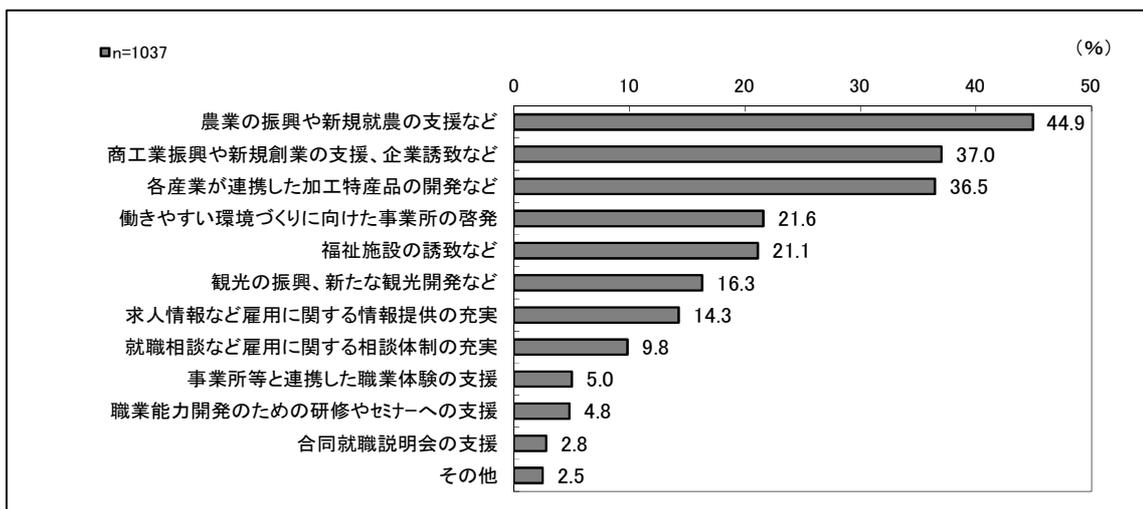
- 「農業の振興や新規就農の支援など」が第 1 位。次いで「商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など」、「各産業が連携した加工特産品の開発など」の順。

町内及び近隣市町での雇用を創出するために力を入れるべきことについては、「農業の振興や新規就農の支援など」（44.9%）が第 1 位にあげられ、次いで「商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など」（37.0%）が第 2 位、「各産業が連携した加工特産品の開発など」（36.5%）が第 3 位となっており、町の基幹産業である農業の振興をはじめ、商工業の振興や加工特産品の開発を通じた雇用の創出を望む声が強くなっています。

その他では、「働きやすい環境づくりに向けた事業所の啓発」（21.6%）、「福祉施設の誘致など」（21.1%）、「観光の振興、新たな観光開発など」（16.3%）、「求人情報など雇用に関する情報提供の充実」（14.3%）、「就職相談など雇用に関する相談体制の充実」（9.8%）などの順となっています。

属性別で見ると、ほとんどの層で第 1 位は全体と同様に「農業の振興や新規就農の支援など」となっていますが、30 代と本町・北町・南町地区では「商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など」（46.8%・39.6%、30 代では「農業の振興や新規就農の支援など」と同率 1 位）が第 1 位となっており、これらの層では商工業の振興を通じた雇用の創出が最も重視されていることがうかがえます。[図表 31・32 参照]

図表 31 町内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表 32 町内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		農業の振興や新規就農の支援など 44.9	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 37.0	各産業が連携した加工特産品の開発など 36.5
性別	男性	農業の振興や新規就農の支援など 52.0	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 45.9	各産業が連携した加工特産品の開発など 43.7
	女性	農業の振興や新規就農の支援など 38.8	各産業が連携した加工特産品の開発など 30.5	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 29.6
年齢	10・20代	農業の振興や新規就農の支援など 39.0	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 35.6	観光の振興、新たな観光開発など 32.2
	30代	農業の振興や新規就農の支援など／商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 46.8		福祉施設の誘致など 29.0
	40代	農業の振興や新規就農の支援など 44.6	各産業が連携した加工特産品の開発など 40.5	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 35.5
	50代	農業の振興や新規就農の支援など 43.1	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 42.2	各産業が連携した加工特産品の開発など 34.5
	60代	農業の振興や新規就農の支援など 53.6	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 41.4	各産業が連携した加工特産品の開発など 40.1
	70歳以上	農業の振興や新規就農の支援など 41.6	各産業が連携した加工特産品の開発など 38.5	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 33.0
居住地区	金富地区	農業の振興や新規就農の支援など 61.2	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 38.8	各産業が連携した加工特産品の開発など 32.7
	厚生・伏古地区	農業の振興や新規就農の支援など 65.9	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など／各産業が連携した加工特産品の開発など 46.3	
	協和地区	農業の振興や新規就農の支援など 43.8	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 37.5	働きやすい環境づくりに向けた事業所の啓発 31.3
	本町・北町・南町地区	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 39.6	農業の振興や新規就農の支援など 37.8	各産業が連携した加工特産品の開発など 36.0
	愛別・東町地区	農業の振興や新規就農の支援など 46.4	各産業が連携した加工特産品の開発など 36.8	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 36.4
	豊里・中央地区	農業の振興や新規就農の支援など 65.7	各産業が連携した加工特産品の開発など 38.9	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 27.8
	愛山・愛山町地区	農業の振興や新規就農の支援など 37.2	各産業が連携した加工特産品の開発など 34.6	商工業振興や新規創業の支援、企業誘致など 32.1

(2) 町外からの移住促進のために力を入れるべきこと

問 10 あなたは、町外から愛別町への「移住」を促進するため、町としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

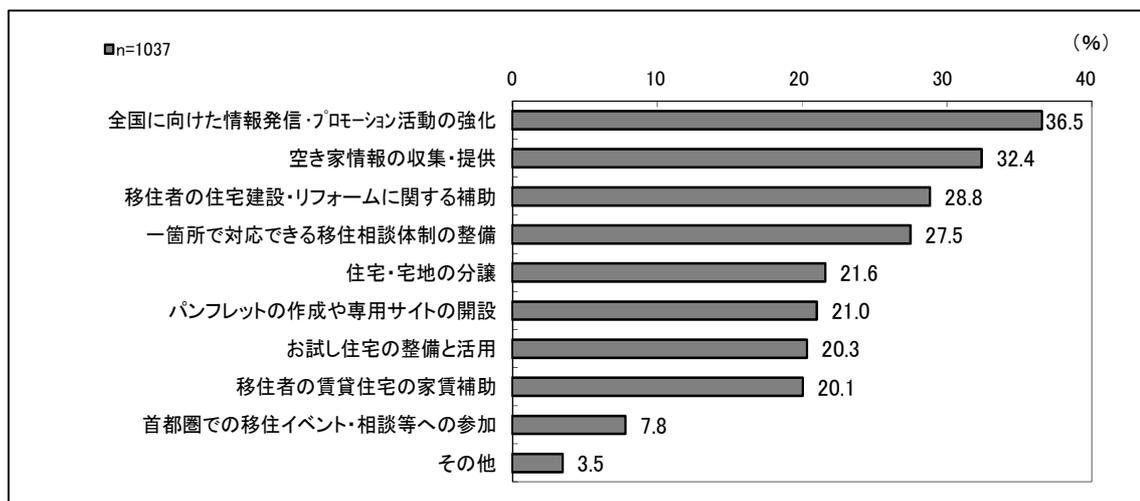
- 「全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化」が第1位。次いで「空き家情報の収集・提供」、「移住者の住宅建設・リフォームに関する補助」、「一箇所で対応できる移住相談体制の整備」の順。

移住促進施策については、問5の「町の各環境に関する満足度」の結果で満足度が低い項目の一つとなっていますが、今後、町として力を入れるべきことについては、「全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化」(36.5%)が第1位にあげられ、次いで「空き家情報の収集・提供」(32.4%)が第2位、「移住者の住宅建設・リフォームに関する補助」(28.8%)が第3位、「一箇所で対応できる移住相談体制の整備」(27.5%)が第4位となっており、町の売り込み活動の強化をはじめ、空き家情報の提供や住宅建設・改修への支援、相談体制の充実に力を入れるべきと考える人が多くなっています。

その他では、「住宅・宅地の分譲」(21.6%)、「パンフレットの作成や専用サイトの開設」(21.0%)、「お試し住宅の整備と活用」(20.3%)、「移住者の賃貸住宅の家賃補助」(20.1%)などの順となっています。

属性別でみると、ほとんどの層で第1位は全体と同様に「全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化」となっていますが、女性、40代と50代、豊里・中央地区では「空き家情報の収集・提供」(32.9%・40.5%・37.9%・40.7%)、金富地区では「移住者の住宅建設・リフォームに関する補助」(42.9%)が第1位で、これらの層では空き家情報の提供や住宅建設・改修への支援が最も重視されています。[図表33・34参照]

図表 33 町外からの移住促進のために力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表 34 町外からの移住促進のために力を入れるべきこと
(全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 36.5	空き家情報の収集・提供 32.4	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 28.8
性別	男性	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 41.0	空き家情報の収集・提供 31.6	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 31.4
	女性	空き家情報の収集・提供 32.9	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 32.7	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 26.8
年齢	10・20代	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 40.7	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 39.0	移住者の賃貸住宅の家賃補助 25.4
	30代	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 50.0	空き家情報の収集・提供／移住者の住宅建設・リフォームに関する補助	37.1
	40代	空き家情報の収集・提供 40.5	住宅・宅地の分譲 38.0	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 34.7
	50代	空き家情報の収集・提供 37.9	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 33.6	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 32.8
	60代	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 41.0	空き家情報の収集・提供 36.0	一箇所に対応できる移住相談体制の整備 34.2
	70歳以上	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 33.9	空き家情報の収集・提供 28.4	一箇所に対応できる移住相談体制の整備 28.2
居住地区	金富地区	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 42.9	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 38.8	空き家情報の収集・提供 36.7
	厚生・伏古地区	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 46.3	お試し住宅の整備と活用 36.6	一箇所に対応できる移住相談体制の整備／空き家情報の収集・提供／移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 26.8
	協和地区	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 34.4	パンフレットの作成や専用サイトの開設／移住者の住宅建設・リフォームに関する補助	28.1
	本町・北町・南町地区	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 36.8	空き家情報の収集・提供 32.7	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 30.3
	愛別・東町地区	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 37.3	一箇所に対応できる移住相談体制の整備 36.8	空き家情報の収集・提供 30.6
	豊里・中央地区	空き家情報の収集・提供 40.7	一箇所に対応できる移住相談体制の整備／全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化	31.5
愛山・愛山町地区	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 35.9	移住者の住宅建設・リフォームに関する補助 30.8	移住者の賃貸住宅の家賃補助 25.6	

(3) 町民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと

問 11 あなたは、町民の「結婚・出産・子育て」の希望をかなえるため、町としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

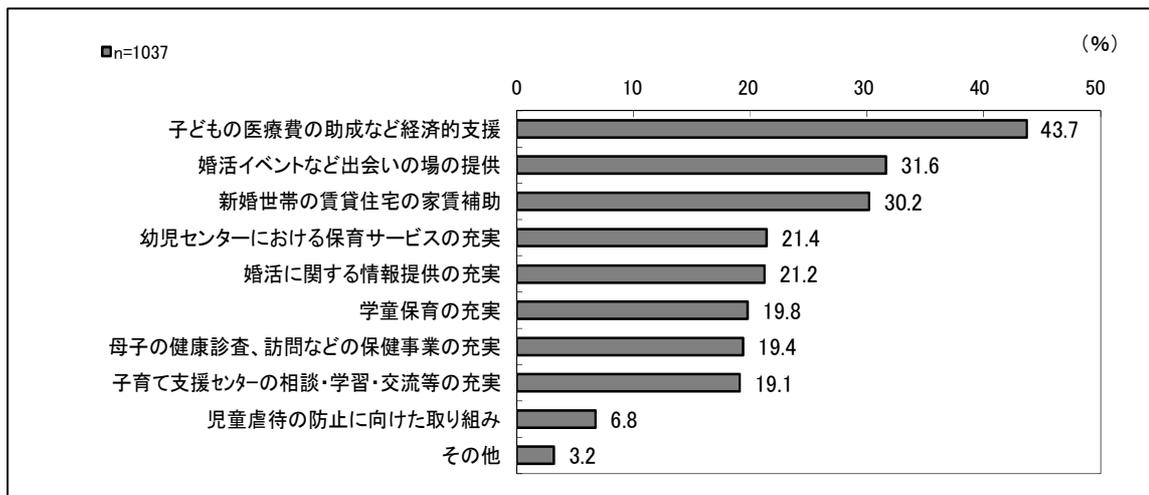
- 「子どもの医療費の助成など経済的支援」が第1位。次いで「婚活イベントなど出会いの場の提供」、「新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助」の順。

町民の結婚・出産・子育ての希望をかなえるために力を入れるべきことについては、「子どもの医療費の助成など経済的支援」(43.7%)が第1位にあげられ、次いで「婚活イベントなど出会いの場の提供」(31.6%)が第2位、「新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助」(30.2%)が第3位となっており、子育て等にかかる負担を軽減するための経済的支援が最も重視されているほか、結婚のための出会いの場づくりや新婚世帯への家賃補助が必要と考える人が多くなっています。

その他では、「幼児センターにおける保育サービスの充実」(21.4%)、「婚活に関する情報提供の充実」(21.2%)、「学童保育の充実」(19.8%)、「母子の健康診査、訪問などの保健事業の充実」(19.4%)、「子育て支援センターの相談・学習・交流等の充実」(19.1%)などの順となっています。

属性別でみると、ほとんどの層で第1位は全体と同様に「子どもの医療費の助成など経済的支援」となっていますが、10・20代では「幼児センターにおける保育サービスの充実」(42.4%)、70歳以上と金富地区・協和地区では「婚活イベントなど出会いの場の提供」(34.4%・49.0%・37.5%)が第1位で、若年層では保育サービスの充実、高齢層や金富・協和地区では結婚のための出会いの場づくりが最も重視されています。[図表 35・36 参照]

図表 35 町民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表 36 町民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと
(全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		子どもの医療費の助成など経済的支援 43.7	婚活イベントなど出会いの場の提供 31.6	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 30.2
性別	男性	子どもの医療費の助成など経済的支援 46.3	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 36.1	婚活イベントなど出会いの場の提供 33.3
	女性	子どもの医療費の助成など経済的支援 41.4	婚活イベントなど出会いの場の提供 30.4	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 25.2
年齢	10・20代	幼児センターにおける保育サービスの充実 42.4	子どもの医療費の助成など経済的支援 40.7	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 37.3
	30代	子どもの医療費の助成など経済的支援 62.9	幼児センターにおける保育サービスの充実 37.1	学童保育の充実 35.5
	40代	子どもの医療費の助成など経済的支援 65.3	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 33.1	幼児センターにおける保育サービスの充実 28.9
	50代	子どもの医療費の助成など経済的支援 45.7	婚活イベントなど出会いの場の提供 33.6	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 30.2
	60代	子どもの医療費の助成など経済的支援 45.9	婚活イベントなど出会いの場の提供／新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 32.9	
	70歳以上	婚活イベントなど出会いの場の提供 34.4	子どもの医療費の助成など経済的支援 34.1	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 27.8
居住地区	金富地区	婚活イベントなど出会いの場の提供 49.0	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 44.9	子どもの医療費の助成など経済的支援 42.9
	厚生・伏古地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 46.3	婚活イベントなど出会いの場の提供／新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 41.5	
	協和地区	婚活イベントなど出会いの場の提供 37.5	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 34.4	子どもの医療費の助成など経済的支援 25.0
	本町・北町・南町地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 44.1	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 29.3	婚活イベントなど出会いの場の提供 27.8
	愛別・東町地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 40.7	婚活イベントなど出会いの場の提供 33.0	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 27.3
	豊里・中央地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 45.4	婚活イベントなど出会いの場の提供 30.6	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 27.8
愛山・愛山町地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 52.6	婚活イベントなど出会いの場の提供 37.2	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 32.1	

(4) 住みたい生活環境整備のため力を入れるべきこと

問 12 あなたは、町民が「住みたい生活環境」を整備するため、町としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

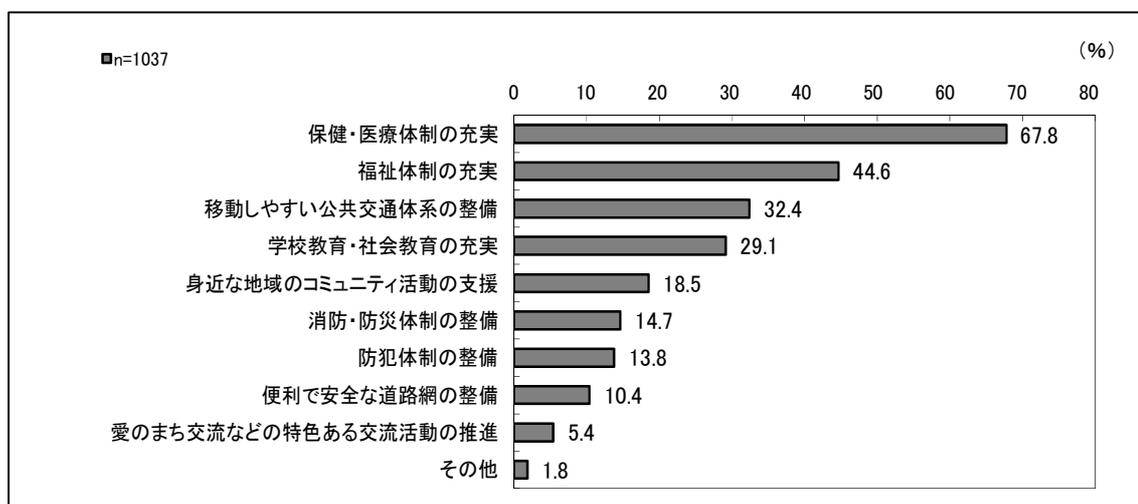
- 「保健・医療体制の充実」が他を引き離して第1位。次いで「福祉体制の充実」、「移動しやすい公共交通体系の整備」、「学校教育・社会教育の充実」の順。

住みたい生活環境を整備するために力を入れるべきことについては、「保健・医療体制の充実」(67.8%)が他を引き離して第1位にあげられ、健康づくり・医療体制の一層の充実が強く求められていることがうかがえます。また、「福祉体制の充実」(44.6%)が第2位、「移動しやすい公共交通体系の整備」(32.4%)が第3位、「学校教育・社会教育の充実」(29.1%)が第4位で、福祉体制の充実や公共交通の整備、教育の充実も重視されています。

その他では、「身近な地域のコミュニティ活動の支援」(18.5%)、「消防・防災体制の整備」(14.7%)、「防犯体制の整備」(13.8%)などの順となっています。

属性別でみると、すべての層で第1位は全体と同様に「保健・医療体制の充実」となっており、性別や年齢、居住地区にかかわらず、健康づくり・医療体制の充実が強く求められていることがうかがえます。また、第2位をみると、多くの層で全体と同様に「福祉体制の充実」となっていますが、10・20代と30代・40代、協和地区では「移動しやすい公共交通体系の整備」(39.0%・41.9%・43.8%・40.6%、30代では「学校教育・社会教育の充実」と同率2位)、30代と金富地区では「学校教育・社会教育の充実」(41.9%・44.9%)、厚生・伏古地区では「身近な地域のコミュニティ活動の支援」(41.5%)が第2位で、年齢や居住地区によって重視する取り組みにやや違いがみられます。[図表 37・38 参照]

図表 37 住みたい生活環境整備のため力を入れるべきこと (全体/複数回答)



図表 38 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		保健・医療体制の充実 67.8	福祉体制の充実 44.6	移動しやすい公共交通体系の整備 32.4
性別	男性	保健・医療体制の充実 69.2	福祉体制の充実 43.3	学校教育・社会教育の充実 30.6
	女性	保健・医療体制の充実 66.8	福祉体制の充実 45.7	移動しやすい公共交通体系の整備 38.0
年齢	10・20代	保健・医療体制の充実 49.2	移動しやすい公共交通体系の整備 39.0	学校教育・社会教育の充実 30.5
	30代	保健・医療体制の充実 67.7	学校教育・社会教育の充実／移動しやすい公共交通体系の整備	41.9
	40代	保健・医療体制の充実 66.1	移動しやすい公共交通体系の整備 43.8	福祉体制の充実 36.4
	50代	保健・医療体制の充実 69.8	福祉体制の充実 38.8	移動しやすい公共交通体系の整備 37.9
	60代	保健・医療体制の充実 73.9	福祉体制の充実 48.2	移動しやすい公共交通体系の整備 34.2
	70歳以上	保健・医療体制の充実 67.2	福祉体制の充実 50.4	学校教育・社会教育の充実 25.3
居住地区	金富地区	保健・医療体制の充実 67.3	学校教育・社会教育の充実 44.9	福祉体制の充実 40.8
	厚生・伏古地区	保健・医療体制の充実 82.9	身近な地域のコミュニティ活動の支援 41.5	学校教育・社会教育の充実 39.0
	協和地区	保健・医療体制の充実 62.5	移動しやすい公共交通体系の整備 40.6	福祉体制の充実 34.4
	本町・北町・南町地区	保健・医療体制の充実 67.3	福祉体制の充実 45.3	移動しやすい公共交通体系の整備 32.9
	愛別・東町地区	保健・医療体制の充実 69.4	福祉体制の充実 42.6	移動しやすい公共交通体系の整備 34.9
	豊里・中央地区	保健・医療体制の充実 64.8	福祉体制の充実 42.6	移動しやすい公共交通体系の整備 32.4
	愛山・愛山町地区	保健・医療体制の充実 65.4	福祉体制の充実 59.0	移動しやすい公共交通体系の整備 25.6

